滿二年以上判事ノ職ニ在ル者及在リタル者ハ司法省ノ奏任文官ニ任用スルコトヲ得

第三條　判任文官ハ別ニ任用ノ規程ヲ設クルモノノ外左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

一　文官普通試驗ヲ經テ其ノ合格證書ヲ有スル者

二　文官高等試驗ヲ經テ其ノ合格證書ヲ有スル者

三　官立公立中學校又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ト認メタル官立公立學校ノ卒業證書ヲ有スル者

四　高等商業學校舊附屬主計學校及舊主計專修科ノ卒業證書ヲ有スル者竝ニ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學、政治學又ハ經濟學ヲ教授スル私立學校ニ於テ明治二十六年十一月十日以前ニ卒業證書ヲ得タル者

五　滿二年以上文官ノ職ニ在リタル者但シ特別任用ノ規程ニ依リ在職シタル者竝ニ教官、技術官ノ在職年數ヲ除ク

第四條　教官及技術官ハ別ニ任用ノ規程ヲ設クルモノノ外高等官ニ在リテハ文官高等試驗委員、判任官ニ在リテハ文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ教官、技術官ノ中若ハ試驗委員ニ於テ教官、技術官タルノ資格アリト認ムル者ノ中ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

第五條　特別ノ學術技藝ヲ要スル行政官ハ高等官ニ在リテハ文官高等試驗委員、判任官ニ在リテハ文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ教官、技術官ノ中ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

第六條　滿五年以上雇員トシテ同一官廳ニ勤續シタル者ハ文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ直ニ其ノ官廳ノ判任文官ニ任用スルコトヲ得

第七條　本令第一條第二項第三項第四項、第二條第二項、第四條、第五條及第六條其ノ他特別ノ規程ニ依リ任用セラレタル者ハ文官試驗ヲ經ルニ非サレハ其ノ各條項又ハ其ノ規程ニ指定シタル以外ノ文官ニ任用スルコトヲ得ス

第八條　文官任用及銓衡ニ關スル細則ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

第九條　本令ハ明治三十二年四月十日ヨリ施行ス

○文官分限令

明治三十二年三月二十七日　勅令第六十二號

明治三十六年勅令第百五十六號改正

第一條　本令ハ親任式ヲ以テ叙任スル官、公使、祕書官及法令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外一般ノ文官ニ適用ス

第二條　官吏ハ刑法ノ宣告、懲戒ノ處分又ハ本令ニ依ルニ非サレハ其ノ官ヲ免セラルルコトナシ

第三條　官吏左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ官ヲ免スルコトヲ得

一　不具、癈疾ニ因リ又ハ身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘサルトキ

二　傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘサルニ因リ又ハ自己ノ便宜ニ因リ免官ヲ願出タルトキ

三　官制又ハ定員ノ改正ニ因リ過員ヲ生シタルトキ

前項第一號ニ依リ其ノ官ヲ免スルトキハ高等官ニ在テハ文官高等懲戒委員會、判任官ニ在テハ文官普通懲戒委員會ノ審査ニ付ス

第四條　官吏ハ廢官若ハ廢廳ノ場合ニ於テハ當然退官者トス

第五條　第十一條第一項第三號及第四號ニ依リ休職ヲ命セラレ滿期ニ至リタルトキハ當然退官者トス

第六條　官吏ハ其ノ意ニ反シテ同等官以下ニ轉官セラルルコトナシ

第七條　文官高等懲戒委員會ニ顧問醫二人ヲ置ク

審査上必要ノ場合ニ於テハ臨時顧問醫ヲ加フルコトヲ得

第八條　文官普通懲戒委員會ニ臨時顧問醫ヲ置ク

第九條　懲戒委員會ハ本令ニ依ル審査ヲ爲ス前豫メ顧問醫ノ意見ヲ徵スヘシ

第十條　第三條第二項ニ依ル懲戒委員會ノ審査ニ關シテハ文官懲戒令第十二條第十三條第二十四條第二十五條第二十九條乃至第三十四條ノ規定ヲ準用ス

第十一條　官吏左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ休職ヲ命スルコトヲ得

一　懲戒令ノ規定ニ依リ懲戒委員會ノ審査ニ付セラレタルトキ

二　刑事事件ニ關シ告訴若ハ告發セラレタルトキ

三　官制又ハ定員ノ改正ニ因リ過員ヲ生シタルトキ

四　官廳事務ノ都合ニ依リ必要ナルトキ

前項休職ノ期間ハ第一號及第二號ノ場合ニ在テハ其ノ事件ノ懲戒委員會又ハ裁判所ニ繫屬中トシ第三號及第四號ノ場合ニ在テハ高等官ニ付テハ滿二年、判任官ニ付テハ滿一年トス

第十二條　休職者ハ其ノ本官ヲ奉シテ職務ニ從事セス其ノ他總テ在職官吏ト異ナルコトナシ

前條第一項第三號及第四號ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ニハ本屬長官ハ事務ノ都合ニ依リ何時ニテモ復職ヲ命スルコトヲ得

第十三條　第十一條ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ニハ其ノ休職中俸給ノ三分ノ一ヲ給ス

第十四條　免官ハ勅任官ニ在テハ內閣總理大臣、奏官任ニ在テハ內閣總理大臣ヲ經テ本屬長官奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行フ

休職ハ勅任官ニ在テハ內閣總理大臣奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行ヒ奏任官ニ在テハ內閣總理大臣ノ認可ヲ經テ本屬長官之ヲ命ス其ノ復職ヲ命スルトキ亦同シ

附　則

第十五條　本令ハ明治三十二年四月十日ヨリ施行ス

官吏非職條例、明治二十三年勅令第二百八十六號其ノ他從前ノ命令ニシテ本令ノ規定ニ牴觸スルモノハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十六條　本令施行前官吏非職條例又ハ明治二十三年勅令第二百八十六號ニ依リ非職又ハ休職ヲ命セラレ未タ滿期ニ至ラサル者ハ本令第十一條第一項第四號ノ休職者ニ關スル規定ヲ適用ス但シ本令第十三條ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　本令中休職トアルハ他ノ法令ニ於テ規定スル非職ト看做ス

（參照）

勅令第二百八十六號（明治二十三年十二月二十七日官報）

第一條　技術官ノ休職ハ一年ヲ一期トス期滿レハ其官ヲ免ス

第二條　技術官ノ休職ニ關シ特別ノ規定ナキモノハ總テ官吏非職ノ例ニ依ル

第三條　本令ハ明治二十四年二月一日ヨリ施行ス現ニ休職中ノ者ノ休職期限モ亦同日ヨリ起算ス

○官吏服務紀律

明治二十年七月二十九日
勅令第三十九號

第一條　凡ソ官吏ハ天皇陛下及天皇陛下ノ政府ニ對シ忠順勤勉ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ各其職務ヲ盡

スヘシ

第二條　官吏ハ其職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スヘシ但其命令ニ對シ意見ヲ述ルコトヲ得

第三條　官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス廉耻ヲ重シ貪汚ノ所爲アルヘカラス

官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス威權ヲ濫用セス謹愼懇切ナルコトヲ務ムヘシ

第四條　官吏ハ己ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトヲ問ハス官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ禁ス其職ヲ退ク後ニ於テモ亦同樣トス

裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ祕密ニ就キ訊問ヲ受クルトキハ本屬長官ノ許可ヲ得タル件ニ限リ供述スルコトヲ得

第五條　官吏ハ私ニ職務上未發ノ文章ヲ關係人ニ漏示スルコトヲ禁ス

第六條　官吏ハ本屬長官ノ許可ナクシテ擅ニ職務ヲ離レ及職務上居住ノ地ヲ離ルヽコトヲ得ス

第七條　官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業會社ノ社長又ハ役員トナルコトヲ得ス

第八條　官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ直接ト間接ヲ問ハス總テ他人ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

官吏外國ノ君主又ハ政府ヨリ授與セントスル所ノ勳章榮賜俸給竝贈遺ヲ受クルニハ天皇陛下ノ裁可ヲ要ス

第九條　左ニ掲ケタル者ト直接ニ關係ノ職務ニ居ルノ官吏ハ其饗燕ヲ受クルコトヲ得ス

一　官廳ノ工事ヲ受負フ者

一　官廳ノ爲替方又ハ出納ヲ引受クル者

一　官廳ノ補助金ヲ受クル起業者

一　官廳ノ用品ヲ調達スル者

一　官廳ト諸般ノ契約ヲ結フ者

第十條　凡ソ上旨タル者ハ職務ノ内外ヲ問ハス所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條　官吏竝ニ其家族ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト間接トヲ問ハス商業ヲ營ムコトヲ得ス

第十二條　官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ス及間接ニ相場商業ニ關係スルコトヲ得ス

第十三條　官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス

第十四條　浪費シテ產ヲ破リ其分ニ應セサル負債ヲ爲ス者ハ過失ノ一タルヘシ

第十五條　官吏ハ私立郵船會社又ハ私立鐵道會社ヨリ無賃乘船無賃乘車切符ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條　凡ソ局長所長其他一部ノ長ハ各所屬官吏ヲ監督シ其過失若シ懲戒處分ヲ行フノ區域ノ内ニ在ラサル者ハ之ヲ訓告スルコトヲ務ムヘシ若シ懲戒處分ヲ要スト認ムルトキハ事狀ヲ具ヘテ之ヲ本屬長官ニ稟告スヘシ其情ヲ知リ隱蔽シテ稟告セサル者亦過失タルコトヲ免レス

第十七條　本紀律ハ高等官判任官及俸給ヲ得テ公務ヲ奉スル者ニ適用ス

○文官懲戒令

明治三十二年三月二十七日　勅令第六十三號

（明治三十三年勅令第二百十一號、同三十四年勅令第二百十八號、同三十八年勅令第二百七十九號、同四十年勅令第百七號、同四十二年勅令第五號、同四十三年勅令第四百四號改正）

第一條　親任式ヲ以テ叙任スル官及法令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外官吏ハ本令ニ依ルニ非サレハ懲戒ヲ受クルコトナシ

第二條　官吏ノ懲戒ヲ受クヘキ場合左ノ如シ

一　職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

二　職務ノ内外ヲ問ハス官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ

第三條　懲戒ハ左ノ如シ

一　免官

二　減俸

三　譴責

第四條　免官ノ處分ヲ受ケタル者ハ其ノ官職ヲ失ヒタル日ヨリ二年間官職ニ就クコトヲ得ス

免官ノ處分ヲ受ケ其ノ情重キ者ハ位記ヲ返上セシム

第五條　減俸ハ一月以上一年以下年俸月割額若ハ月俸ノ三分一以下ヲ減ス

第六條　勅任官ノ免官及減俸ハ懲戒委員會ノ議決ヲ具シ内閣總理大臣之ヲ奏請シ奏任官ノ免官ハ懲戒委員會ノ議決ヲ具シ内閣總理大臣ヲ經テ本屬長官之ヲ奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行フ

奏任官ノ減俸及判任官ノ免官及減俸ハ懲戒委員會ノ議決ニ依リ本屬長官之ヲ行フ

譴責ハ本屬長官之ヲ行フ

第七條　懲戒ニ付セラルヘキ事件刑事裁判所ニ繫屬スル間ハ同一事件ニ對シ懲戒委員會ヲ開クコトヲ得ス

懲戒委員會ノ議決前懲戒ニ付スヘキ者ニ對シ刑事訴追ノ始マリタルトキハ事件ノ判決ヲ終ハルマテ

懲戒委員會ノ開會ヲ停止ス

第二章　懲戒委員會

第一款　總則

第八條　懲戒委員會ヲ分テ文官高等懲戒委員會及文官普通懲戒委員會トス

第九條　文官高等懲戒委員會ハ高等官ノ懲戒ヲ議決シ文官普通懲戒委員會ハ判任官ノ懲戒ヲ議決ス

第二款　文官高等懲戒委員會

第十條　文官高等懲戒委員會ハ委員長一人委員六人ヲ以テ組織ス

第十一條　委員長ハ樞密顧問官ノ中ヨリ委員ハ行政裁判所長官、勅任行政裁判所評定官、勅任判事及其ノ他ノ勅官文官ノ中ヨリ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

委員會ニ豫備委員會六人ヲ置キ前項ノ例ニ依リ之ヲ命ス

第十二條　委員會ハ委員長及委員ヲ併セ五人以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

委員會ノ議事ハ多數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ委員長之ヲ決ス

第十三條　委員長事故アルトキハ上席ノ委員之ヲ代理ス

委員中事故アルトキ又ハ闕員アルトキハ委員長ハ豫備委員ノ中ヨリ代理ヲ命ス

第十四條　委員及豫備委員ノ任期ハ三年トス

委員及豫備委員中闕員アリテ補闕ノ爲任命セラレタル者ハ前任者ノ殘任期間在任ス

第十五條　委員長及委員ハ左ノ事項ニ該當スルトキハ之ヲ免ス

一　其ノ官職ヲ失ヒタルトキ

二　委員會所在地以外ニ任所ヲ轉シタルトキ

第十六條　委員會ニ幹事一人ヲ置ク

第十七條　幹事ハ高等官ノ中ヨリ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

第十八條　幹事ハ委員長ノ命ヲ承ケ委員會ノ議事ヲ準備シ庶務ヲ統理ス

第十九條　委員會ニ書記三人ヲ置ク

第二十條　書記ハ判任官ノ中ヨリ委員長之ヲ命ス

第二十一條　書記ハ幹事ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三款　文官普通懲戒委員會

第二十二條　文官普通懲戒委員會ハ左ノ各官廳ニ之ヲ置ク

一　內閣
一　樞密院
一　各省
一　朝鮮總督府
一　臺灣總督府
一　關東都督府
一　鐵道院
一　會計檢査院
一　行政裁判所
一　警視廳
一　北海道廳
一　樺太廳
一　府縣
一　貴族院事務局
一　衆議院事務局

前項ノ外各省大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ所轄官廳ニ文官普通懲戒委員會ヲ置クコトヲ得

第二十三條　委員長ハ各官廳ノ長官ヲ以テ之ニ充ツ但シ內閣ニ在テハ法制局長官、樞密院ニ在テハ書記官長、各省ニ在テハ次官、朝鮮總督府ニ在リテハ政務總監、臺灣總督府關東都督府ニ在リテハ民政長官、鐵道院ニ在リテハ副總裁ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ二人乃至六人トシ當該官廳高等官ノ中ヨリ本屬長官之ヲ命ス但シ內閣ニ在テハ賞勳局、法制局及內閣所屬高等官ノ中ヨリ之ヲ命ス

特別ノ事情アルトキハ上級官廳ノ高等官ヲ以テ下級官廳ノ委員ニ充ツルコトヲ得

第二十四條　委員會ハ委員長及委員二人以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第二十五條　委員長事故アルトキハ上席ノ委員之ヲ代理ス

第二十六條　委員會ニ書記二人ヲ置ク

第二十七條　書記ハ委員長所屬官廳ノ判任官ノ中ヨリ委員長之ヲ命ス

第二十八條　書記ハ委員長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三章　懲戒手續

第二十九條　本屬長官ハ所部ノ官吏ニシテ懲戒ニ當ルヘキ所爲アリト思料スルトキハ證憑ヲ具ヘ書面

ヲ以テ懲戒委員會ノ審査ヲ要求スヘシ

第三十條　前條ノ要求アリタルトキハ委員長ハ期日ヲ定メテ委員會ヲ招集スヘシ

委員會ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ本人ノ出頭ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ本人所屬官廳ヨリ本官相當ノ旅費ヲ給スベシ

第三十一條　委員會ニ於テ議決ヲ爲シタルトキハ其ノ理由ヲ具シ本屬長官ニ覆申スヘシ

第三十二條　委員長及委員ハ自己又ハ其ノ親族ニ關スル事件ノ會議ニ參與スルコトヲ得ス

第三十三條　委員會ノ審査手續ハ委員會之ヲ定ム

附　則

第三十四條　高等官試補ハ高等官ニ準シ判任官見習ハ判任官ニ準シ本令ヲ適用ス

第三十五條　本令ハ明治三十二年四月十日ヨリ施行ス

官吏懲戒例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○官吏待遇者ノ懲戒ニ關スル件

明治四十年四月三十日 勅令第百七十七號

官吏待遇者ノ懲戒ニ關シテハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外高等官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ニハ文官懲戒令中高等官ニ關スル規定ヲ準用シ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ニハ同令中判任官ニ關スル規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

神職懲戒令及明治三十二年勅令第三百四十九號ハ之ヲ廢止ス

○公式令

明治四十年二月一日 勅令第六號

第一條　皇室ノ大事ヲ宣誥シ及大權ノ施行ニ關スル勅旨ヲ宣誥スルハ別段ノ形式ニ依ルモノヲ除クノ外詔書ヲ以テス

詔書ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ其ノ皇室ノ大事ニ關スルモノニハ宮內大臣年月日ヲ記入シ內閣總理大臣ト俱ニ之ニ副署ス其ノ大權ノ施行ニ關スルモノニハ內閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署シ又ハ他ノ國務大臣ト俱ニ之ニ副署ス

第二條　文書ニ由リ發スル勅旨ニシテ宣誥セサルモノハ別段ノ形式ニ依ルモノヲ除クノ外勅書ヲ以テス

勅書ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ其ノ皇室ノ事務ニ關スルモノニハ宮內大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス其ノ國務大臣ノ職務ニ關スルモノニハ內閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス

第三條　帝國憲法ノ改正ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ樞密顧問ノ諮詢及帝國憲法第七十三條ニ依ル帝國議會ノ議決ヲ經タル旨ヲ記載シ親署ノ後御璽ヲ鈐シ內閣總理大臣年月日ヲ記入シ他ノ國務各大臣ト俱ニ之ニ副署ス

第四條　皇室典範ノ改正ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ皇族會議及樞密顧問ノ諮詢ヲ經タル旨ヲ記載シ親署ノ後御璽ヲ鈐シ宮內大臣年月日ヲ記入シ國務各大臣ト俱ニ之ニ副署ス

第五條　皇室典範ニ基ク諸規則、宮內官制其ノ他皇室ノ事務ニ關シ勅定ヲ經タル規程ニシテ發表ヲ要スルモノハ皇室令トシ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ宮內大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス國務大臣ノ職務ニ關連スル皇室令ノ上諭ニハ內閣總理大臣又ハ內閣總理大臣及主任ノ國務大臣ト俱ニ之ニ副署ス

皇族會議及樞密顧問官ハ其ノ一方ノ諮詢ヲ經タル皇室令ノ上諭ニハ其旨ヲ記載ス

第六條　法律ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ帝國議會ノ協贊ヲ經タル旨ヲ記載シ親署ノ後御璽ヲ鈐シ內閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署シ又ハ他ノ國務各大臣若ハ主任ノ國務大臣ト俱ニ之ニ副署ス

樞密顧問ノ諮詢ヲ經タル法律ノ上諭ニハ其ノ旨ヲ記載ス

第七條　勅令ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ內閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署シ又ハ他ノ國務各大臣若ハ主任ノ國務大臣ト俱ニ之ニ副署ス

樞密顧問ノ諮詢ヲ經タル勅令及貴族院ノ諮詢又ハ議決ヲ經タル勅令ノ上諭ニハ其ノ旨ヲ記載シ帝國憲法第八條第一項又ハ第七十條第一項ニ依リ發スル勅令ノ上諭ニハ其ノ旨ヲ記載ス

帝國議會ニ於テ帝國憲法第八條第一項ノ勅令ヲ承諾セサル場合ニ於テ其ノ效力ヲ失フコトヲ公布スル勅令ノ上諭ニハ同條第二項ニ依ル旨ヲ記載ス

第八條　國際條約ヲ發表スルトキハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ樞密顧問ノ諮詢ヲ經タル旨ヲ記載シ親署ノ後御璽ヲ鈐シ內閣總理大臣年月日ヲ記入シ主任ノ國務大臣ト俱ニ之ニ副署ス

第九條　豫算及豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スノ件ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ帝國議會ノ協贊ヲ經タル旨ヲ記載シ親署ノ後御璽ヲ鈐シ內閣總理大臣年月日ヲ記入シ主任ノ國務大臣ト俱ニ之ニ副署ス

第十條　閣令ニハ內閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ署名ス

省令ニハ各省大臣年月日ヲ記入シ之ニ署名ス

宮內省令ニハ宮內大臣年月日ヲ記入シ之ニ署名ス

第十一條　皇室令、勅令、閣令及省令ハ別段ノ施行時期アル場合ノ外公布ノ日ヨリ起算シ滿二十日ヲ經テ之ヲ施行ス

第十二條　前數條ノ公文ヲ公布スルハ官報ヲ以テス

第十三條　國書其ノ他外交上ノ親署、條約批准書、全權委任狀、外國派遣官吏委任狀、名譽領事委任狀及外國領事認可狀ニハ親署ノ後國璽ヲ鈐シ主任ノ國務大臣之ニ副署ス外務大臣ニ授クル全權委任狀ニハ內閣總理大臣之ニ副署ス

第十四條　親任式ヲ以テ任スル官ノ官記ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ內閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス宮內官ニ付テハ宮內大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス

內閣總理大臣ヲ任スルノ官記ニハ他ノ國務大臣又ハ內大臣、宮內大臣ヲ任スルノ官記ニハ內大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス

前二項ニ依ルモノノ外勅任官ノ官記ニハ御璽ヲ鈐シ內閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス宮內官ニ付テハ宮內大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス

奏任官ノ官記ニハ內閣ノ印ヲ鈐シ內閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ヲ宣ス宮內官ニ付テハ宮內省ノ印

ヲ鈐シ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ宣ス

第十五條　親任式ヲ以テ任シタル官ヲ免スルノ辞令書ニハ御璽ヲ鈐シ内閣総理大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス宮内官ニ付テハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス

内閣総理大臣ヲ免スルノ辞令書ニハ他ノ國務大臣又ハ内大臣、宮内大臣ヲ免スルノ辞令書ニハ内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス

前二項ニ依ルモノノ外勅任官ヲ免スルノ辞令書ニハ内閣総理大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス宮内官ニ付テハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス

奏任官ヲ免スルノ辞令書ニハ内閣総理大臣年月日ヲ記入シ之ヲ宣ス宮内官ニ付テハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ宣ス

第十六條　爵記ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス

第十七條　一位ノ位記ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス

二位以下四位以上ノ位記ニハ御璽ヲ鈐シ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス五位以下ノ位記ニハ宮内省ノ印ヲ鈐シ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ宣ス

第十八條　爵位ノ返上ヲ命シ又ハ允許スルノ辞令書ニハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス

第十九條　勲三等功五級以上ノ勲記ニハ親書ノ後國璽ヲ鈐シ勲四等功六級以下ノ勲記ニハ國璽ヲ鈐シ内閣総理大臣旨ヲ奉シ賞勲局総裁ヲシテ年月日ヲ記入シ之ニ署名セシム

勲記ニハ勲章ノ種別ニ從ヒ號數ヲ附シ簿冊ニ記入スル旨ヲ附記シ賞勲局ノ印ヲ鈐シ賞勲局書記官之ニ署名ス

第二十條　記章ノ證狀竝外國勲章及記章ノ佩用免許ノ證狀ニハ内閣総理大臣旨ヲ奉シ賞勲局総裁ヲシテ年月日ヲ記入シ賞勲局ノ印ヲ鈐シ之ニ署名セシム

證狀ニハ其ノ種別ニ從ヒ號數ヲ附シ簿冊ニ記入スル旨ヲ附記シ賞勲局ノ印ヲ鈐シ賞勲局書記官之ニ署名ス

第二十一條　勲章及記章竝外國勲章及記章ノ佩用免許ノ證狀ヲ褫奪スルノ辭令書ニハ内閣総理大臣旨ヲ奉シ賞勲局総裁ヲシテ年月日ヲ記入シ之ニ署名セシム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

公文式ハ之ヲ廢止ス

○地方官廳ノ發スル命令公布式

明治二十六年十月三十日　勅令第百九十九號

第一條　警視廳令、北海道廳令、府縣令、島廳令及郡令ニハ其警視廳令、北海道廳令、府縣令、島廳令又ハ郡令ナルコトヲ明記シ警視総監、北海道廳長官、府縣知事、島司又ハ郡長各之ニ署名シ公布ノ年月日ヲ記入シテ同日之ヲ公布スヘシ

第二條　警視廳令、北海道廳令及府縣令ヲ公布スルノ方法ハ警視廳令、北海道廳令又ハ府縣令ノ定ムル所ニ依ル

島廳令郡令ヲ公布スルノ方法ハ北海道廳令又ハ府縣令ノ定ムル所ニ依ル

第三條　警視廳令、北海道廳令及府縣令ハ特ニ施行ノ期日ヲ掲クルモノヲ除クノ外警視廳令、北海道廳令又ハ府縣令中ニ記入シタル公布ノ日ヨリ起算シ七日ヲ經テ之ヲ施行ス但シ島廳又ハ郡役所所在地ノ島地ニ在テハ其ノ所轄島廳又ハ郡役所ニ到達シタル日ヨリ起算シ其ノ他ノ島地ニ在テハ所轄町

村役場又ハ戸長役場ニ到達シタル日ヨリ起算ス

警視廳令、北海道廳令及府縣令ヲ登載シタル印刷物ヲ管内一般ノ島廳、郡區役所、町村役場又ハ戸長役場ニ配付スルヲ以テ公布ノ方法ト定メサル場合ニ於テモ前項ノ島廳、郡役所町村役場又ハ戸長役場ニ對シテハ仍該令ヲ登載シタル印刷物若クハ謄本ヲ配付スヘキモノトス

第四條　島廳令及ヒ郡令ハ特ニ施行ノ期日ヲ掲クル者ヲ除クノ外島廳令又ハ郡令ニ記入シタル公布ノ日ヨリ起算シ七日ヲ經テ之ヲ施行ス但シ島廳及ヒ郡役所所在ノ地ヲ除クノ外島地ニ在テハ其ノ所轄町村役場又ハ戸長役場ニ到達シタル日ヨリ起算ス

島廳令及郡令ヲ登載シタル印刷物若ハ謄本ヲ部内一般ノ町村役場又ハ戸長役場ニ配付スルヲ以テ公布ノ方法ト定メサル場合ニ於テモ前項ノ町村役場又ハ戸長役場ニ對シテハ仍該令ヲ登載シタル印刷物若ハ謄本ヲ配付スヘキモノトス

附　則

第五條　北海道區長ノ發スル區令ニハ本令中郡令ニ關スル規定ヲ適用ス

第六條　本令ハ明治二十六年十一月一日ヨリ施行ス

○通俗教育調査委員會通俗圖書審査規程

明治四十四年十月十日 文部省告示第二百三十七號

第一條　通俗教育調査委員會ハ圖書ヲ審査シ通俗教育ノ趣旨ニ適スルモノニ認定ヲ與フ

第二條　圖書ノ著作者又ハ發行者ハ其ノ著作又ハ發行ニ係ル圖書ノ認定ヲ通俗教育調査委員會ニ請フコトヲ得

前項ニ依リ認定ヲ請ハントスル者ハ其ノ旨ヲ具シタル書面ニ該圖書三部ヲ添ヘ提出スヘシ

第三條　認定濟ノ圖書ニハ發行者ニ於テ通俗教育調査委員會認定ノ文字ヲ記入スルコトヲ得

第四條　認定濟ノ圖書ハ通俗教育調査委員會ニ於テ其ノ名稱、冊數、定價、發行ノ年月日並著作者及發行所ヲ登錄シ官報ヲ以テ之ヲ公示ス

第五條　認定ノ效力ハ認定ヲ經タル後其ノ内容ヲ變更シタル圖書ニ及ハサルモノトス

○通俗教育調査委員會幻燈映畫及活動寫眞「フイルム」審査規程

明治四十四年十月十日 文部省告示第二百卅八號

第一條　通俗教育調査委員會ハ左ノモノニ就キ審査ヲ行ヒ通俗教育ノ趣旨ニ適スルモノニ認定ヲ與フ

一　幻燈映畫

二　活動寫眞「フイルム」

前項ノ審査ハ其ノ說明書ト共ニ之ヲ行フ

第二條　幻燈映畫又ハ活動寫眞「フイルム」ノ製作者又ハ販賣者若ハ幻燈又ハ活動寫眞ノ興行者ハ其ノ映畫又ハ「フイルム」ノ認定ヲ通俗教育調査委員會ニ請フコトヲ得

第三條　前條ニ依リ認定ヲ請ハントスル者ハ其ノ旨ヲ具シタル書面ニ該幻燈映畫、活動寫眞「フイルム」ノ見本及其ノ目錄並說明書ヲ添ヘ提出スヘシ

前項ニ依リ提出シタル映畫及「フイルム」ハ出願者ノ要求ニ依リ之ヲ還付ス

第四條　前條ノ物件ハ審査中通俗教育調査委員會之ヲ保管ス但シ其ノ毀損及滅失其ノ他ノ損害ニ就キテハ一切其ノ責ニ任セス

第五條　審査ヲ請ヒタル映畫、「フイルム」及其ノ説明書ニシテ瑣少ノ修正ヲ加フレハ認定スルコトヲ得ヘシト認メラレタルモノアルトキハ其ノ廉ヲ出願者ニ指示スルコトアルヘシ

第六條　認定濟ノ映畫、「フイルム」及説明書ニハ通俗教育調査委員會認定ノ文字ヲ記入スルコトヲ得

第七條　認定濟ノ映畫、「フイルム」及出願者ノ氏名ハ通俗教育調査委員會ニ於テ之ヲ登錄シ官報ヲ以テ之ヲ公示ス

第八條　認定ノ效力ハ認定ヲ經タル後修正ヲ加ヘタル映畫、「フィルム」及説明書ニ及ハサルモノトス

第九條　映畫及「フイルム」等ノ提出及還付ニ要スル費用ハ出願者ノ負擔トス

○文部省版權所有圖書ノ翻刻出版ニ關スル規定

明治二十七年八月十一日文部省令第二十二號

第一條　文部省版權所有ノ圖書ハ其ノ種類ニ依リ明治二十七年十二月十一日以後此ノ省令ノ規定ニ依リ廣ク翻刻出版ヲ許可スヘシ但翻刻出版ヲ許可スヘキ圖書ノ名目ハ官報ヲ以テ公告スヘシ

第二條　翻刻出版ノ許可ヲ得ント欲スル者ハ其圖書ノ名目及翻刻出版シテ發賣スヘキ定價ヲ具シ文部大臣ニ願出ヘシ

前項及其ノ他此ノ省令ノ條項ニ依リ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ總テ地方長官ヲ經由スヘシ

第三條　翻刻出版ノ圖書ハ紙質脆弱又ハ粗惡ナルヘカラス印刷鮮明ニシテ製本堅固ナルヲ要ス

第四條　翻刻出版ノ圖書ハ文字ノ大小字體圖畫冊數枚數行數及毎行ノ字數ハ原本ト異ナルヘカラス但圖書ノ種類又ハ部分ニ依リ本文ノ制限ニ依ラサラントスルトキハ見本ヲ添ヘテ豫メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第五條　飜刻出版ノ圖書ハ毎冊ニ飜刻出版許可ノ年月日ヲ明記スヘシ

第六條　飜刻出版ノ許可ヲ得タル者定價ヲ變更セントスルトキハ豫メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第七條　飜刻出版ノ圖書ハ見本三部ヲ文部省ニ差出シ檢査ヲ受クヘシ其ノ檢査ヲ經タル後ニアラサレハ發行スルコトヲ得ス改版シタルトキモ亦同シ

第八條　飜刻出版ノ許可ヲ得タル後三箇月ヲ經テ出版セサルトキハ飜刻出版許可ノ效ヲ失フ

第九條　飜刻出版者ニ於テ定價ヲ超エタル價格ヲ以テ其ノ圖書ヲ發賣シ又ハ文部省ノ檢査ヲ經タル見本ト異ナルモノヲ發行シ其ノ他前諸條ノ規定ニ背クトキハ文部大臣ハ何時ニテモ飜刻出版ノ許可ヲ取消スヘシ

第十條　前諸條ニ依ルノ外文部大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ飜刻出版者ヲシテ特ニ契約書ヲ差出サシメ相當ノ保證金ヲ納付セシムルコトアルヘシ

第十一條　地方長官ハ其ノ管内ニ行ハル、飜刻出版ノ圖書ヲ監視シ若シ此ノ省令ノ規定ニ背クモノアルトキハ文部大臣ニ報告スヘシ

○訴願法

明治二十三年十月九日法律第百五號

第一條　訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規定アルモノヲ除ク外左ニ掲クル事件ニ付之ヲ提起スルコトヲ得

一　租税及手數料ノ賦課ニ關スル事件

二　租税滯納處分ニ關スル事件

三　營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件

四　水利及土木ニ關スル事件
五　土地ノ官民有區分ニ關スル事件
六　地方警察ニ關スル事件
其他法律勅令ニ於テ特ニ訴願ヲ許シタル事件

第二條　訴願セントスル者ハ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シ直接上級行政廳ニ之ヲ提起スヘシ
訴願ノ裁決ヲ受ケタル後更ニ上級行政廳ニ訴願スルトキハ其裁決ヲ爲シタル行政廳ヲ經由スヘシ
國ノ行政ニ付此法律ニ依リ郡參事會又ハ市參事會ノ處分若クハ裁決ニ對シテ訴願セントスル者ハ其處分若クハ裁決ヲ爲シタル郡參事會又ハ市參事會ヲ經由シテ府縣參事會ニ之ヲ提起スヘシ

第三條　各省大臣ノ處分ニ對シ訴願セントスル者ハ其省ニ之ヲ提起スヘシ

第四條　裁判所ノ裁判各省ノ裁決及第二條第三項府縣參事會ノ裁決ヲ經タルモノハ其事件ニ付更ニ訴願スルコトヲ得ス

第五條　訴願ハ文書ヲ以テ之ヲ提起スヘシ
訴願書ノ侮辱誹毀ニ涉ルモノハ之ヲ受理セス

第六條　訴願書ハ其不服ノ要點理由要求及訴願人ノ身分職業住所年齢ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘシ
訴願書ニハ證據書類ヲ添ヘ竝下級行政廳ノ裁決ヲ經タルモノハ其裁決書ヲ添フヘシ

第七條　多數ノ人員共同シテ訴願セントスルトキハ其訴願書ニ各訴願人ノ身分職業住所年齢ヲ記載シ署名捺印シ其中ヨリ三名以下ノ總代人ヲ選ヒ之ニ委任シ總代委任ノ正當ナルコトヲ證明スヘシ
法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ハ其名ヲ以テ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第八條　行政處分ヲ受ケタル後六十日ヲ經過シタルトキハ其處分ニ對シ訴願スルコトヲ得ス

行政廳ノ裁決ヲ經タル訴願ニシテ其裁決ヲ受ケタル後三十日ヲ經過シタルモノハ更ニ上級行政廳ニ訴願スルコトヲ得ス
行政廳ニ於テ宥恕ス可キ事由アリト認ムルトキハ期限經過後ニ於テモ仍之ヲ受理スルコトヲ得

第九條　法律勅令ニ依リ訴願ヲ提起スヘカラサルモノナルカ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ之ヲ却下ス
其訴願書ノ方式ヲ闕クニ止マルモノハ期限ヲ指定シテ還付スヘシ

第十條　訴願書ハ郵便ヲ以テ之ヲ差出スコトヲ得
郵便遞送ノ日數ハ第八條ノ訴願期限內ニ之ヲ算入セス

第十一條　第二條第一項ノ場合ニ於テ訴願書ノ經由ニ當レル行政廳ハ訴願書ヲ受取リタル日ヨリ十日以內ニ辯明書及必要文書ヲ添ヘ上級行政廳ニ之ヲ發送スヘシ
第二條第二項ノ場合ニ於テ訴願書ノ經由ニ當レル行政廳ハ訴願書ヲ受取リタル日ヨリ三日以內ニ上級行政廳ニ之ヲ發送スヘシ
第二條第三項ノ場合ニ於テ訴願書ヲ發送スルトキ亦前二項ノ例ニ依ルヘシ

第十二條　訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外行政處分ノ執行ヲ停止セス但行政廳ハ其職權ニ依リ又ハ訴願人ノ願ニ依リ必要ナリト認ムルトキハ其執行ヲ停止スルコトヲ得

第十三條　訴願ハ口頭審問ヲナサス其文書ニ就キ之ヲ裁決ス但行政廳ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ口頭審問ヲ爲スコトヲ得

第十四條　訴願ノ裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其理由ヲ付スヘシ訴願ヲ却下スルトキ亦同シ

第十五條　訴願ノ裁決書ハ其處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シテ之ヲ訴願人ニ交付スヘシ訴願書ヲ却下

スルトキ亦同シ

第十六條　上級行政廳ニ於テ爲シタル裁決ハ下級行政廳ヲ羈束ス

第十七條　訴願ノ手續ニ關シ他ノ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノハ各其規程ニ依ル

附　則

第十八條　明治十五年十二月第五十八號布告請願規則ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十九條　此法律施行ノ前請願規則ニ依リ受理シタル請願ハ仍其規則ニ依リ之ヲ處分ス

請願規則ニ依リ下級行政廳ノ指令ヲ受ケタル者訴願スルヲ得ヘキ場合ニ於テ更ニ訴願セントスルトキハ此法律ニ從ヒ其上級行政廳ニ之ヲ提起スヘシ

第二十條　第八條ノ訴願期限ハ此法律施行ノ前行政處分ヲ受ケ又ハ請願規則ニ依リ指令ヲ受ケタル事件ニシテ其處分又ハ指令ヲ受ケタル日ヨリ滿五年ヲ經過セサルモノニ對シテハ此法律執行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條　行政廳ニ呈出スル請願ハ此法律ニ依ルノ限ニアラス

○行政執行法

明治三十三年六月二日法律第八十四號

（明治四十三年法律第五十二號改正）

第一條　當該行政官廳ハ泥醉者瘋癲者自殺ヲ企ツル者其ノ他救護ヲ要スト認ムル者ニ對シ必要ナル檢束ヲ加ヘ戎器、兇器其ノ他危險ノ虞アル物件ノ假領置ヲ爲スコトヲ得暴行鬪爭其ノ他公安ヲ害スルノ虞アル者ニ對シ之ヲ豫防スル爲必要ナルトキ亦同シ

前項ノ檢束ハ翌日ノ日沒後ニ至ルコトヲ得ス又假領置ハ三十日以內ニ於テ其ノ期間ヲ定ムヘシ

第二條　當該行政官廳ハ日出前日沒後ニ於テハ生命身體又ハ財產ニ對シ危害切迫セリト認ムルトキ又ハ博奕密賣淫ノ現行アリト認ムルトキニ非サレハ現居住者ノ意ニ反シテ邸宅ニ入ルコトヲ得ス但シ旅店、割烹店其ノ他夜間ト雖衆人ノ出入スル場所ニ於テ其ノ公開時間內ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　當該行政官廳ハ密賣淫犯者若ハ其ノ前科者ニシテ尙密賣淫ノ常習アル者ニ對シ其ノ健康ヲ診斷シ若ハ指定シタル醫師ノ檢診ヲ受ケシメ傳染性疾患ニ罹リ必要アリト認ムルトキハ病院ニ入ラシメ又ハ指定シタル醫師ノ治療ヲ受ケシメ治癒ニ至ルマテ指定シタル場所ニ居住セシメ其ノ外出ヲ禁止スルコトヲ得

前項療養ノ費用ハ本人又ハ媒合者ノ負擔トス但シ本人又ハ媒合者ニ於テ費用ヲ負擔スルノ資力ナシト認ムルトキハ廳府縣警察費ヲ以テ支辨スヘシ

第四條　當該行政官廳ハ天災、事變ニ際シ又ハ勅令ノ規定アル場合ニ於テ危害豫防若ハ衛生ノ爲メ必要ト認ムルトキハ土地、物件ヲ使用、處分シ又ハ其ノ使用ヲ制限スルコトヲ得

第五條　當該行政官廳ハ法令又ハ法令ニ基キテ爲ス處分ニ依リ命シタル行爲又ハ不行爲ヲ强制スル爲メ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　自ラ義務者ノ爲スヘキ行爲ヲ爲シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコト

二　强制スヘキ行爲ニシテ他人ノ爲スコト能ハサルモノナルトキ又ハ不行爲ヲ强制スヘキトキハ命令ノ規定ニヨリ二十五圓以下ノ過料ニ處スルコト

前項ノ處分ハ豫メ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ急迫ノ事情アル場合ニ於テ第一號ノ處分ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス

行政官廳ハ第一項ノ處分ニヨリ行爲又ハ不行爲ヲ强制スルコト能ハスト認ムルトキ又ハ急迫ノ事情アル場合ニ非サレハ直接强制ヲ爲スコトヲ得ス

第六條　第三條及第五條ノ費用及第五條ノ過料ハ國稅徵收法ノ規定ニヨリ之ヲ徵收スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ徵收金ニ付國稅ニ次ギ先取特權ヲ有ス

第一項ノ費用及過料ニ關スル繰替支辨、收入ノ所屬其ノ他必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　認可又ハ許可ヲ受クルニ非サレハ所有スルコトヲ得サル物件行政廳ノ保管ニ歸シタル場合ニ於テ其ノ所有ヲ認許スヘカラサルトキハ其ノ所有權國庫ニ歸屬ス假領置ヲ爲シタル物件ニシテ一箇年以內ニ交付ヲ請求スル者ナキトキ亦同シ

○行政執行法施行令

明治三十三年六月二日
勅令第二百五十三號

第一條　廳府縣長官ハ行政執行法第三條ノ健康診斷ヲ行フガ爲必要ナル設備ヲ爲スヘシ

前項設備ニ要スル費用ハ廳府縣警察費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第二條　生命、身體若ハ財產ニ對シ危害切迫セリト認メ又ハ水陸ノ交通ニ危害ヲ及ホスノ虞アリト認メタルトキハ當該行政官廳ハ行政執行法第四條ニ依リ必要ナル措置ヲ爲スコトヲ得

左ノ各號ニ揭クル土地、物件ニ關シテハ法令ノ規定ニ違背シ因テ危害ヲ生シ又ハ健康ヲ害スルノ虞アリト認メタルトキ亦前項ニ同シ

一　崩壞又ハ人ヲ陷落セシムルノ虞アル場所

二　家屋其ノ他ノ工作物

三　船車其ノ他交通ノ用ニ供スル器具又ハ裝置

四　汽罐、汽機及其ノ附屬裝置

五　前各號ニ揭ケタルモノ、外主務大臣ノ定メタル土地、物件

第三條　危害豫防ノ爲又ハ衛生上必要ト認ムル物品ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ必要ナル分量ヲ試驗ノ用ニ供スルコトヲ得

第四條　行政執行法第五條ノ過料ハ處分ヲ爲ス行政官廳ノ區別ニ從ヒ左ノ金額ヲ超ユルコトヲ得ス

一　各省大臣　二十五圓

二　廳府縣長官　拾圓

三　其他ノ行政官廳　二圓

第五條　行政執行法第五條ノ戒告ハ履行期間ヲ定メ且書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第六條　行政執行法第五條ノ費用ノ徵收ハ現ニ要シタル費用及其ノ納期日ヲ決定シ決定書ノ正本ヲ義務者ニ交付シテ之ヲ爲スヘシ

過料ノ處分ハ其ノ金額及納期日ヲ決定シ決定書ノ正本ヲ義務者ニ交付シテ之ヲ爲スヘシ

第七條　行政執行法第五條ノ費用ハ事務費ノ所屬ニ從ヒ國庫又ハ府縣經濟ヨリ之ヲ支出シ其ノ徵收金及過料ハ事務費ノ所屬ニ從ヒ國庫又ハ府縣經濟ニ收入スヘシ

前項ノ規定ハ行政執行法第三條ノ費用ニ付之ヲ準用ス但シ本人又ハ媒合者ヲシテ病院ニ辨償セシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

附則

第八條　他ノ法令ノ規定ニ依リ行政官廳ニ於テ行政處分ヲ强制スル爲豫メ戒告ヲ爲ストキ自ラ義務者ノ爲スヘキ行爲ヲ爲シ若ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルトキ又ハ行政處分ヲ强制スル爲過料ニ處スルトキハ第五條第六條及第七條第一項ノ規定ヲ準用ス

○郡長委任條件抄

明治三十一年十二月二十七日
大分縣訓令第六五號

郡役所　町村役場

一　郡判任官及郡立以下ノ公立學校職員ノ除服出仕並ニ私事旅行ニ關スルコト
三　郡判任官及郡立以下ノ公立學校職員出張ニ關スルコト
四　小學校學級編成屆ヲ受理スルコト
五　郡立以下ノ公立學校職員ノ慰勞金給與ニ關スルコト

○官印ノ寸法及彫刻ノ件

明治三十一年八月十二日
閣令第五號

公務ニ關シ長官或ハ主任ノ名ヲ以テ上申下達及往復スル書類ニ用ヰル印章ハ勅任官ハ方九分(曲尺)奏任官ハ方七分(曲尺)判任官ハ方六分(曲尺)トシ官名ノミヲ彫刻スヘシ但シ現ニ使用ノ分ハ改刻スルニ及ハス

○縣費補助規程

明治三十三年六月一日
大分縣令第二二號

第一條　縣費ヨリ補助ヲ受クル者ハ別段ノ規定若クハ命令書ニ掲ケタル事項ノ外總テ本令ニ遵由スヘシ

第二條　縣費ノ補助ヲ出願スル者アルトキハ必要ト認ムル事項ニ關シ豫メ實地檢査ヲ爲スコトアルヘシ

第三條　縣費ヨリ補助ヲ受クル者ハ事業ノ目的若ハ施設ノ方法ヲ變更スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル事故アルトキハ知事ノ認可ヲ受ケ之ヲ變更スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ補助ノ金額ヲ增減スルコトアルヘシ

第四條　補助ニ關スル知事ノ命令ニ違背シタルトキハ補助ノ全部若ハ幾部ヲ取消スコトアルヘシ此ノ場合ニ於テ既ニ下付シタル補助金アルトキハ之ヲ返納セシム

第五條　縣費ノ補助ヲ受クル事業及經費ノ收支ハ之ヲ檢査セシムルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ何時タリトモ其ノ檢査ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條　縣費ノ補助ヲ受ケタル者ハ年度經過後三箇月以内ニ於テ收支決算書及事業成績書ヲ調製シ之ヲ知事ニ報告スヘシ

第七條　前條ノ決算書若クハ成績書ニ就キ事實ノ証明ヲ必要トスルトキハ證憑書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第八條　縣費ヨリ奬勵費ヲ受クル者ニ就テモ又本令ヲ準用ス

○東亞同文書院縣費補助留學生義務ニ關スル規程

明治三十四年四月十一日
大分縣告示第六六號

第一條　東亞同文書院縣費補助留學生ハ卒業後六箇年間本縣指定ノ職ニ從事スルノ義務ヲ有ス

第二條　留學生卒業後本縣ニ於テ直ニ就職セシムルノ必要ナキトキハ本縣ノ承認ヲ經テ他ニ就職スルコトヲ得但シ本縣ニ於テ就職ヲ指定シタルトキハ直ニ其ノ現職ヲ辭スルヲ要ス

前項ニ依リ他ニ就職ノ場合ニ於テ其ノ職務及住居地身分等ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度當廳ニ屆出ツヘシ

第三條　留學生在學中自己ノ都合ニ依リ退學シ若ハ不都合ノ行爲ニ依リ退學ヲ命セラレ又ハ卒業後義務年限內ニ於テ故ナク其ノ義務ヲ盡ササルトキ若ハ不都合ノ行爲アリタルトキハ支給セシ補助費ノ全部又ハ幾部ヲ償還セシム

第四條　留學生撰拔確定ノ上ハ左ノ書式ニ準シ保証人二名連署町村長ノ証明ヲ受ケ誓約書ヲ提出スヘシ

第五條　留學生誓約書ニ連署スル保証人ハ本縣內ニ居住シ年齡二十年以上ノ男子ニシテ直接國稅五圓以上ヲ納メ當廳ノ適當ト認メタル者ニ限ル

第六條　保証人ノ住所身分氏名等ニ異動ヲ生シ若ハ改印シタルトキハ其ノ旨直ニ當廳ニ屆出ツヘシ

第七條　保証人ハ當廳ヨリ照會又ハ召喚ヲ受ケタルトキハ直ニ回答若ハ出頭スヘシ

書式

印紙

誓約書

某儀今般東亞同文書院ヘ本縣ヨリ縣費補助留學生トシテ派遣被成下候上ハ規則命令堅ク相守リ自己ノ都合ヲ以テ退學ハ決シテ仕間敷卒業後六箇年間ハ本縣御指定ノ職務ニ從ヒ誠實勤勉其ノ任ヲ盡シ可申候萬一在學中又ハ卒業後不都合ノ行爲アリテ補助費ノ償還ヲ命セラレタルトキハ本人又ハ保証人ニ於テ速ニ償還致スヘク其ノ他本人身上ニ關スル事件ハ一切保証人ニ於テ引受ケ可申候仍テ爲後日誓約書如件

明治何年何月何日

大分縣何郡何町村何番地族稱
戸主誰何男等
東亞同文書院留學生　何　某　㊞

大分縣何郡何町村何番地族稱
保証人　何　某　㊞

大分縣何郡何町村何番地族稱
保証人　何　某　㊞

大分縣知事何某殿

前記保証人ハ何郡何町村內ニ居住シ直接國稅五圓以上ヲ納ムル者ナルコトヲ證明ス

明治何年何月何日

何郡何町村長　氏　名　㊞

○青年會規則標準及青年會附屬教育補習會規則標準

明治四十一年八月十日
大分縣訓令第甞五號

郡役所　警察署　警察分署
町村役場　公私立學校

町村ノ青年ヲシテ智德ヲ修養シ身體ヲ鍛錬セシムルハ啻ニ青年ノ品位ヲ高メ福利ヲ增スノミナラス町村自治及ヒ一般產業教育等ノ發達ヲ促進スル上ニ於テ稗補スル所亦鮮少ナラサルヘシ近時各地ニ於テ青年會ヲ設立シテ學術ノ研究風俗ノ改良等ヲ企圖スルモノ漸次增加シ來ルハ喜ブヘキ現象ナリト雖其ノ組織方法等間々不備ノモノアリ殊ニ縣下未タ普ク之カ設立ヲ見ルニ至ラサルハ遺憾トスル所ナリ今左ニ青年會規則ノ標準ヲ示ス宜シク地方有志ト力ヲ戮セ町村ノ青年ヲ指導誘掖シテ一層青年會ノ設立ヲ奬勵シ尙既設ノモノニ對シテハ之カ改善發達ニ力ヲ盡スヘシ

青年會規則標準

第一章　目的

第一條　本會ハ教育ニ關スル勅語ノ趣旨ヲ奉體シテ智德ヲ修養シ身體ヲ鍛錬シ協同、自治、勤勉、力行ヲ旨トシ進ミテ町村ノ發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二章　組織及名稱

第二條　本會ハ町村內居住ノ青年ヲ以テ組織ス又必要ニ應シ支部ヲ設クルコトアルヘシ
本會ハ何々青年會ト稱シ其ノ事務所ヲ何所ニ置ク（支部ヲ置ク場合ハ何々青年會何々支部ト稱ス）

第三章　役員

第三條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會長　一名
一　副會長　若干名
一　幹事　若干名
一　評議員　若干名

支部ニハ支部長一名支部副長幹事評議員各若干名ヲ置ク

第四條　役員職務ヲ定ムルコト左ノ如シ

會長ハ本會一切ノ事務ヲ統理シ本會ヲ代表シ兼テ評議員會又ハ總會ノ議長ト爲ル
副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキ又ハ缺員ノ際ハ之ヲ代理ス
支部長ハ會長ノ指揮ヲ承ケ支部ニ關スル一切ノ事務ヲ處理シ支部ヲ代表シ兼テ支部評議員會又ハ總會ノ議長ト爲ル
支部副長ハ支部長ヲ補佐シ支部長事故アルトキ又ハ缺員ノ際之ヲ代理ス
幹事ハ會長又ハ支部長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス
評議員ハ會長又ハ支部長ノ諮問ニ應シテ重要ノ事項ヲ審議ス

第五條　會長副會長ハ評議員會ノ議決ニ依リ地方ノ名望アル者ノ中ヨリ之ヲ推戴ス
評議員ハ會員ノ互選ニ依リ又幹事ハ會長ノ指名ニ依リ之ヲ定ム
役員ノ任期ハ會長副會長ハ三ケ年幹事評議員ハ二ケ年トス但シ再選スルモ妨ケナシ

第六條　本會ハ評議員會ノ議決ニ依リ學識又ハ名望アル者ヲ推戴シテ顧問ト爲ス

第四章　會員

第七條　入會セントスル者ハ會長ニ申出テ其ノ承認ヲ受クヘシ
退會セントスル者ハ事由ヲ具シ會長ニ屆出ツヘシ

會員ニシテ會員タルノ義務ヲ盡サズ又ハ面目ヲ汚辱シタル者ハ評議員會ノ議決ヲ經テ之ヲ除名ス

第五章　集會

第八條　本會ハ毎年一回總會ヲ開ク但シ必要アルトキハ臨時之ヲ開クコトアルヘシ

總會ニ附議スヘキ事項概ネ左ノ如シ

一　庶務會計ノ報告

二　會則ノ設定若クハ變更

三　役員ノ選擧

四　經費及事業ニ關スル事項

五　其ノ他必要ナル事項

總會ノ日時場所等ハ評議員會ノ議決ニ依リ會長之ヲ定ム

評議員會ハ必要ニ應シ會長ニ於テ其ノ日時場所ヲ定メ之ヲ開ク

支部ニ於ケル集會ハ總テ本會ニ準シ之ヲ開ク

第九條　總會及評議員會ノ議事ハ出席會員ノ多數意見ニ依リ之ヲ決ス

第六章　事業

第十條　本會又ハ支部ニ於テ施行スル事業ノ概目左ノ如シ

一、學業ノ講習

(イ)夜學會

(ロ)休日學校

(ハ)講話及談話

(ニ)圖書館新聞雜誌縱覽所ノ設置又ハ新聞雜誌圖書ノ購讀

(ホ)音樂會幻燈會竝各種ノ實驗

二、身體ノ鍛錬

(イ)擊劍、柔術、體操、相撲等

(ロ)運動會

三、風紀ノ改善

(イ)惡風ノ矯正良習ノ助長

(ロ)幼者ノ保護善導及老者ノ慰藉

(ハ)軍人軍屬其ノ他公共事業ニ盡力シタル者ノ家、遺族又ハ鰥寡孤獨貧窮者ニ對スル金品ノ寄贈又ハ勞力ノ幇助

(ニ)軍人軍屬其ノ他公共事業ニ從事シタル者ノ送迎弔慰竝犒軍恤兵其ノ他ノ慰藉

四、實業ニ關スル研究及實行

(イ)農、商、工業及水產業等ノ改良發達

(ロ)共同販賣又ハ購買

(ハ)實業ニ關スル實驗談竝之ニ關スル報告

(ニ)實業視察員ノ派遣

(ホ)農產物製作品及家畜等ノ共進會

五、公共事業

(イ)公有地ノ耕作開墾又ハ町村及學校基本財產ノ設置及增殖ノ幇助

(ロ)道路堤塘學校病院役場其ノ他公共營造物ノ新築修繕等ノ手傳及公共事業ニ對スル特別ノ請負
(ハ)町村ニ於ケル學齢兒童就學及出席並納税衞生勸業等ノ督勵ニ關スル公務ノ幇助
(ニ)水難火災風害等ノ際ニ於ケル消防救護

六、善行者ノ旌表

(イ)孝子節婦義僕其ノ他善行者ノ旌表
(ロ)會員中ニ於ケル品行方正勤勉力行者ニシテ他ノ模範タルヘキ者ノ旌表
(ハ)夜學會又ハ休日學校等ノ生徒中品行方正學力優等又ハ學業熱心ニシテ他ノ模範タルヘキ者ノ旌表

七勤勉貯蓄ノ奬勵

(イ)會員各自又ハ共同ノ勤勉及貯蓄ノ奬勵
(ロ)會員ノ勤勞ニ依ル本會基本財産ノ蓄積

第七章　經費

第十一條　本會ノ經費ハ左ノ收入中ヨリ之ヲ支辨シ殘餘ヲ生シタルトキハ基本財産トシテ之ヲ積立ツ

一　會員醵出ノ金品
二　共進會其ノ他ノ事業ヨリ生スル收益
三　公共團體ノ補助
四　有志者ノ寄附金

經費ニ關シ更ニ必要ナル事項ハ細則ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

青年會付屬教育補習會規則標準

第一條　青年會ハ本規程ニ依リ青年ニ既習ノ事項ヲ補習シ實用的知識ヲ得シメ善良ナル風儀習慣ヲ養成センカ爲補習教育ヲ施ス

第二條　本規程ニ依リ補習教育ヲ受ケントスルモノハ本會長又ハ支部長ニ申出テ其ノ承認ヲ受クヘシ
但シ現ニ他ノ學校ニ入學セサルモノニ限ル

第三條　學級ノ編制ハ便宜之ヲ定メ修業年限ハ別ニ之ヲ定メス

第四條　教科目ハ修身、國語、算術等トシ女子ノ爲ニ裁縫ヲ加フ
前項ノ外入營前ノ壯丁ニ對シテハ特ニ人營後ノ心得其ノ他必要ナル事項ヲ授ク

第五條　教授ハ何月何日ヨリ何月何日マテトシ晝間(夜間)何時間トス但シ年齢十三歳以上ノ女子ノ教授ハ晝間ニ限リ之ヲ行フ

第六條　教師ハ學校教員又ハ神官僧侶其他適任ナル者ニ囑託ス

第七條　場所ハ何々小學校(何々寺院等)トス

第八條　經費ハ本會費ヲ以テ之レヲ支辨シ別ニ授業料ヲ徴收セス

第九條　品行方正學力優等又ハ學業熱心ニシテ他ノ模範タルヘキ者ニ對シテハ本會ニ於テ旌表ス

○未成年者喫煙禁止法

明治三十三年三月六日
法律第三十三號

第一條　未成年者ハ煙草ヲ喫スルコトヲ得ス

第二條　前條ニ違反シタル者アルトキハ行政ノ處分ヲ以テ喫煙ノ爲ニ所持スル煙草及器具ヲ沒收ス

第三條　未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者情ヲ知リテ其喫煙ヲ制止セザルトキハ壹圓以下ノ科料ニ處ス
親權ヲ行フ者ニ代リテ未成年者ヲ監督スル者亦前項ニ依リテ處斷ス
第四條　未成年者ニ其自用ニ供スルモノナルコトヲ知リテ煙草又ハ器具ヲ販賣シタル者ハ拾圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○徵兵令

明治二十二年一月廿二日法律第一號

（明治二十二年法律第二十九號同二十六年法律第四號同二十八年法律第十五號同三十七年勅令第二百十二號同三十九年法律第四十三號改正）

第一章　總　則

第一條　日本帝國臣民ニシテ滿十七歲ヨリ滿四十歲迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服スル義務アルモノトス
第二條　兵役ハ分テ常備兵役後備兵役補充兵役及國民兵役トス
第三條　常備兵役ハ分テ現役及豫備役トス
現役ハ陸軍ハ三箇年海軍ハ四箇年ニシテ滿二十歲ニ至リタル者之ニ服シ豫備役ハ陸軍ハ四箇年四箇月海軍ハ三箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス
第四條　後備兵役ハ陸軍ハ十箇年海軍ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス
第五條　補充兵役ハ陸軍ニ在リテハ十二箇年四箇月海軍ニ在リテハ一箇年ニシテ其年所要ノ現役兵員ニ超過スル者ノ中所要ノ人員之ニ服ス
第六條　國民兵役ハ分テ第一國民兵役第二國民兵役トス
第一國民兵役ハ陸軍ニ在リテハ後備兵役又ハ召集セラレタル補充兵ニシテ其役ヲ終リタル者海軍ニ在リテハ後備兵役ヲ終リタル者之ニ服シ第二國民兵役ハ常備兵役後備兵役補充兵役及第一國民兵役ニ在ラサル者之ニ服ス
第七條　各兵役ノ期限既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若ハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ擧アルトキ若ハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアルヘシ
第八條　重罪ノ刑ニ處セラレタルモノハ兵役ニ服スルコトヲ許サス

第二章　服　役

第九條　陸軍現役兵及補充兵ハ每年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ
海軍現役兵及補充兵ハ每年所要ノ人員ニ應シ沿海地方及島嶼ノ壯丁ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則ニ依リ服役スル者ハ本令ノ限ニ在ラス
警備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁（近衞師團ニ編入スル者ヲ除ク）ハ總テ之ヲ警備隊ニ充テ其地ニ於テ服役セシム但在營期限ハ一箇年以內トス
第十條　雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアルヘシ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ
第十一條　抽籤番號ノ順序ニ由リ其年ノ補充兵役所要員ニ超過スル者ハ國民兵役ニ服セシム

第十二條　二十歳ニ至ラスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ志願ニ因リ現役ニ服スルコトヲ得

第十三條　滿十七歳以上滿二十八歳以下ニシテ官立學校（小學科及撥科等ノ別科ヲ除ク）府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業証書ヲ所持シ若ハ陸軍試驗委員ノ試驗ニ及第シ服役中食料被服裝具等ノ費用ヲ自辨シ豫備後備將校タル冀望ヲ有スル者ハ志願ニ因リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得但費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ証アル者ニハ其幾部ヲ官給スルコトアルヘシ

一年志願兵ノ豫備役後備役年期ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

滿十七歳以上滿二十八歳以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業証書ヲ所持シ官立公立小學校ノ教職ニ在ル者ハ六週間陸軍現役ニ服セシム其服役ニ關スル費用ハ官給トス

前項ノ現役ヲ終リタルモノハ直チニ國民兵役ニ服セシム

第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十八歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ更ニ二箇年間陸軍現役及常例ノ豫備役後備役ニ服セシム但第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニアラス

第十四條　禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレタルモノハ一年志願兵タルコトヲ許サス

第十五條　現役中殊ニ勤務ニ熟シ品行方正ナルモノハ歸休ヲ命スルコトアルヘシ

第十六條　豫備兵後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度六十日以内勤務演習ノ爲メ之ヲ召集シ又毎年一度簡閲點呼ヲナス

第十七條　陸軍補充兵及海軍補充兵ハ現役兵ノ補缺ニ充テ又戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス但陸軍補充兵ヲ以テ補缺ニ充ツルハ其服役ノ初年ニ限ル

陸軍補充兵ハ平常ニ在テ百五十日以内教育ノ爲メ之ヲ召集ス其他勤務演習及簡閲點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

第十八條　國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限リ之ヲ召集ス

第三章　免役延期及猶豫

第十九條　兵役ヲ免スルハ癈疾又ハ不具等ニシテ徵兵檢査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第二十條　左ニ掲クル者ハ徵集ヲ延期ス次年ニ於テ仍ホ徵集ニ適セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第一　體格完全且强壯ナルモ身幹未タ定尺ニ滿タサル者

第二　疾病中又ハ病後ニシテ勞役ニ堪ヘサル者

第二十一條　公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重輕罪ノ爲メ訊問若クハ拘留中ノ者ハ徵集ヲ延期ス

第二十二條　徵集ニ應スルトキハ其家族自活シ能ハサルノ確證アル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ延期ス其事故三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ國民兵役ニ服セシム但分家又ハ絶家廢家再興ノ故ヲ以テ本條ニ當ル者其他自活シ能ハサル事故ヲ作爲シタル者ハ其願ヲ許可セス

第二十三條　第十三條第一項ニ掲クル學校ニ在校ノ者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十八歳迄徵集ヲ猶豫ス其事故滿二十八歳迄ニ止ミ又ハ二十八歳ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但第十三條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者及第十三條第三項ニ依リ服役スル者ハ此限ニ在ラス

韓國、露國領沿海州、露國領薩哈璉、清國、香港、澳門以外ノ外國ニ在ル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ猶豫ス滿三十二歳迄ニ歸朝スル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集シ三十二歳ヲ過クル者ハ國民

兵役ニ服セシム但十三條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス

第二十四條　餘人ヲ以テ代フヘカラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長、助役及收入役ハ豫備兵ニ在ルト後備兵ニ在ルト陸軍補充兵ニ在ルトヲ問ハス勤務演習簡閲點呼ノ爲メ召集スルコトナシ

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員其ノ開會中亦同シ

第四章　雜則

第二十五條　毎年一月一日ヨリ十一月三十日迄ニ滿二十歳トナルモノハ其年一月中ニ、十二月一日ヨリ同月三十一日迄ニ滿二十歳ト爲ル者ハ翌年一月中ニ又二十三條第一項ニ當ル者ニシテ二十八歳迄ニ事故止ミ同條第二項ニ當ル者ニシテ三十二歳迄ニ歸朝シタル者ハ十四日以内ニ書面ヲ以テ戶主ニ非ハ其戶主ヨリ本籍ノ市町村長ニ屆出テサル者可シ但二十歳未滿ニシテ現役ヲ終ヘタル者又ハ現役中ノ者ハ本條ノ屆出ヲ爲スニ及ハス

第二十六條　徵集ハ本籍所在ノ徵募區ニ於テスルモノトス

第二十七條　疾病又ハ犯罪等ノ爲メ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之ヲ徵集ス

第二十八條　兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潛匿シタル者又ハ正當ノ事故ナク身體ノ檢査ヲ受ケサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス

第二十九條　服役年期ノ計算ハ現役豫備役補充役及海軍後備役ニ在テハ各其役ニ就ク年ノ十二月一日（第十三條第三項ニ依リ服役スル者ノ現役年期ノ計算ハ別ニ勅令ヲ以テ規定スル月日ヨリ起算ス）ヨリ陸軍後備役ニ在テハ其役ニ就ク年ノ四月一日ヨリ起算ス但

第七條ニ依リ延期シタルモノト雖モ服役年期ノ計算ハ延期セサル者ニ同シ

現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中及逃亡中ノ日數ハ現役年期ニ算入セス其豫備役年期ハ現役ヲ終ル年ヨリ起算シ陸軍ニ在テハ第六年目ノ三月三十一日迄海軍ニ在テハ第五年目ノ十一月三十日迄トス但第十條ニ依リ現役年期ヲ短縮シタルモノハ其現役ヲ短縮シタル場合ニ於ケル豫備役年期ニ應シ本項ニ準シテ計算ス

豫備役後備役及補充役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ事由ナクシテ召集ヲ缺キタル者其召集ヲ缺キタル年ハ服役年期ニ算セス

第五章　罰則

第三十條　第二十五條ノ屆出ヲナサヽル者及正當ノ事故ナク身体ノ檢査ヲ受ケサル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條　兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潛匿シ若クハ身体ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六章　附則

第三十二條　本令ハ明治二十二年一月ヨリ施行ス但シ第二十五條ノ屆出期限ハ明治二十二年ニ限リ三月一日ヨリ同月十五日迄トス

第三十三條　本令ハ北海道ニ於テ函館江差福山ノ外及沖繩縣竝東京府管下小笠原島ニハ漸ヲ以テ施行ス其時期區域及特ニ徵集ヲ免除シ若クハ猶豫スヘキモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條　本令中市町村長トアルハ市制町村制ヲ實施スル迄ノ間戶長ノコトトス

第三十五條　現今陸軍豫備役ニ在ル者ノ服役年期ハ第三條ニ依ル其後備役ニ在ル者ハ常備役年期ヲ通シテ十二箇年四箇月トス

第三十六條　舊令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十七條　舊令第十八條第二項ニ依リ徴集猶豫ニ屬シタル者ハ徴集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十八條　舊令第十八條第七項及第二十一條ニ依リ徴集猶豫ニ屬シタル者ハ徴集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十九條　舊令第十八條第三項ノ生徒ニシテ第一豫備徴員ト爲リ仍ホ在校ノ者ハ該徴員タルコトヲ止メ滿二十七歳迄徴集ヲ猶豫シ其事故二十七歳ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第四十條　第三十六條第三十七條第三十八條及第三十九條ニ掲クル者其事故各其本條ノ期限內ニ止ミタルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徴集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十一條　舊令第十八條第三項若クハ第十九條ニ依リ徴集猶豫ニ屬シ在校ノ者ハ其事故八箇年以內ニ止ミタルトキ又ハ八箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徴集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十二條　舊令第三十條ニ依リ補充員ト爲リタル者ハ之ヲ豫備徴員ト爲シ一箇年間明治二十一年十二月一日ヨリ起算スニ徴集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第四十三條　舊令第三十一條ニ依リ第一豫備徴員ト爲リ在校セサル者及舊令第三十二條ニ依リ第二豫備徴員ト爲リタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム補充員ヨリ第一豫備徴員ト爲リタル者亦同シ

第四十四條　明治十二年第四十六號布告徴兵令ニ依リ國民軍ノ外免役又ハ平時免役若クハ徴集猶豫ニ屬シタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム

第四十五條　舊令第八條ニ依リ海軍兵ト爲リタル者ノ服役期限ハ同令第三條及第四條ニ依ル

第四十六條　第三十六條第三十七條第三十八條ニ掲クル徴集延期ノ者及第三十九條第四十一條ニ掲クル徴集猶豫ノ者其事故各其本條ノ期限內ニ止ミタルトキハ三日以內ニ本籍ノ市町村長ニ屆出可シ

第十三條第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十八歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ三日以內ニ本籍ノ市町村長ニ屆出可シ

第一項及第二項ノ屆出ヲ爲サヽル者及本令施行前舊令第三十五條第三十六條ノ屆出ヲ爲サスシテ本令施行後ニ於テ發覺スル者ハ本令第三十條ニ依リ處分ス可シ

○陸軍六週間現役兵條例　明治四十一年二月十四日　勅令第九號

（明治四十五年三月勅令第十六號改正）

第一條　徴兵令第十三條第三項ニ依リ六週間現役ニ服セシム（キ者ハ教職ニ就キタル年又ハ其ノ翌年ニ於テ其ノ在職地師管內ノ步兵隊朝鮮、臺灣、樺太及清國ニ在リテハ在職地附近ノ步兵隊ニ編入シ服役セシム

第二條　六週間現役兵ハ每年六月一日乃至十月一日ノ間ニ於テ入營セシム但シ疾病其ノ他已ムヲ得サル事故ニ依リ入營期ヨリ三日以內ニ入營シ難キ者ハ翌年ニ於テ服役セシム

第三條　戰時事變ニ際シテハ前二條ノ規定ニ拘ハラス服役セシムルコトヲ得

第四條　六週間現役兵ノ服役日數ハ入營期日ヨリ起算ス

第五條　六週間現役兵ノ教育ハ聯隊長獨立大隊ニ在リテハ隊長以下同シ其ノ責ニ任ス

第六條　六週間現役兵中勤務勉勵品行方正ニシテ第二國民兵ヲ以テ編成スル部隊ノ幹部タルヲ得ヘキ材幹アル者ニハ聯隊長其ノ成績ヲ具シ順序ヲ經テ師團長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ受ケ國民軍幹部適任證書ヲ授與ス

第七條　六週間現役ニ服スヘキ者ノ身體檢査ハ入營セシムヘキ年ニ於テ徵兵檢査規則ニ依リ之ヲ行フ

第八條　六週間現役兵ニシテ傷痍疾病ノ爲メ其ノ役ニ堪ヘサル者ハ聯隊長之ニ退營ヲ命スルコトヲ得

第九條　六週間現役兵ニハ現役兵トシテノ給料ヲ給セス

檢査ノ爲往復ノ旅費及入營旅費ハ官給トス

第十條　朝鮮、臺灣、樺太又ハ清國ニ在職シ六週間陸軍現役ニ服スヘキ者ニ付テハ朝鮮總督府道長官臺灣總督府民政長官、樺太廳長官、關東都督府民政長官又ハ領事官ヲシテ之カ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○陸軍六週間現役兵條例施行細則

明治四十一年二月十四日　陸軍省令第三號

（明治四十五年三月陸軍省令第五號改正）

第一條　六週間現役ニ服スヘキ資格ヲ有スル者ハ其ノ教職ニ就キタル日ヨリ二週間以内ニ官立府縣立師範學校長ノ卒業證明書及在職小學校長ノ在職證明書ヲ添ヘ本籍地ノ市町村長（東京市京都市大阪市名古屋市及北海道沖繩縣ノ區ニ在リテハ區長、町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ戶長其他町村長ニ準スヘキ者以下同シ）ニ届出ヘシ

市町村長ハ前項ノ届書ヲ査覈シ之ヲ所管聯隊區司令官ニ送付スヘシ但シ島嶼又ハ郡ニ在リテハ島司郡長ヲ經由スヘキモノトス

第二條　六週間現役ニ服スヘキ者ノ身體檢査ハ教職ニ就キタル年、學校所在地ノ聯隊區内又ハ警備隊區内便宜ノ徵兵署ニ於テ之ヲ行フ但シ教職ニ就キタル期日ノ關係上其ノ年、身體檢査ヲ行ヒ難キ者ハ翌年回トス

朝鮮臺灣樺太及清國ニ在職スル者ハ前項ニ依ラス明治三十九年勅令第三百十八號ニ依ル徵兵身體檢査施行ノ際其ノ身體檢査ヲ行フモノトス

交通不便ノ地ニ在職スル者ニ在リテハ第一項ノ規定ニ拘ラス便宜ノ徵兵署ニ於テ身體檢査ヲ爲スコトヲ得此場合ニ在リテハ地方長官ノ協議ニ依リ師團長之ヲ定ムルモノトス

第一項ノ身體檢査期日ハ師團長地方長官ニ協議ノ上之ヲ定メ聯隊區司令官ニ達スヘシ

第三條　官立公立小學校長ハ其ノ學校ニ在職スル者ニシテ六週間現役ニ服スヘキ者ヲ調査シ本人ヨリ徵シタル其ノ戶籍謄本ヲ添ヘ毎年四月十五日迄（朝鮮臺灣樺太及清國ニ在リテハ二月末日迄）ニ其ノ學校所在地所管ノ地方長官ニ届出ヘシ

前項ノ期日後教職ニ就キタル者アルトキハ其ノ都度前項届出ノ手續ヲ爲スヘキモノトス

第四條　地方長官前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ徵兵事務條例施行細則第一樣式ニ準シ六週間現役兵ノ名簿ヲ作リ前條第一項ニ當ル者ニ付テハ毎年四月盡日迄（朝鮮臺灣樺太及清國ニ在リテハ三月十五日迄）ニ第二項ニ當ルモノニ付テハ其ノ都度之ヲ其ノ學校所在地所管ノ師團長ニ送付シ且本人本籍地ノ島司郡市長（東京市京都市大阪市名古屋市及北海道沖繩縣ノ區ニ在リテハ區長以下同シ）ニ通知スヘシ

師團長前項ノ名簿ヲ受ケタル時ハ之ヲ査覈シ其ノ身體檢査ヲ行フヘキ聯隊區司令官（朝鮮臺灣樺太及清國ニ在リテハ檢査官）ニ之ヲ送付スヘキモノトス

第五條　領事館ニ於テ身體檢査ヲ施行スヘキ者ニ付テハ前條ニ拘ラス學校所在地所管ノ領事官第三條ノ届出ヲ受ケタルトキ之ヲ其ノ身體檢査ヲ施行スル領事館ニ送付シ且本人本籍地ノ島司郡市長ニ通

知スヘシ

前項該當者ノ六週間現役兵名簿ハ檢査官ニ於テ調製スルモノトス

第六條　地方長官ハ所定ノ期日ニ於テ身體檢査ヲ受クヘキ者ヲ檢査場ニ出頭セシムヘシ

第六條ノ二　疾病其ノ他己ムヲ得サル事故ノ爲身体檢査ヲ受ケ難キ場合ニ在リテハ本人ヨリ檢査當日迄ニ証據書類ヲ添ヘ其ノ旨ヲ學校所在地所管ノ地方長官ニ屆出ヘシ其ノ屆書ニハ學校長ノ奥書証印ヲ受ケ傷痍疾病ノ者ニ在リテハ尚醫師ノ診斷証書ヲ添付スヘシ

前項ノ屆出ヲ爲シタル者其ノ事故止ミタルトキハ直ニ學校所在地所管ノ地方長官ニ屆出ヘシ

第七條　身體檢査ヲ終リタルトキハ聯隊區司令官（朝鮮臺灣樺太及清國ニ在リテハ檢査官）ハ六週間現役兵ノ名簿ニ所要ノ記入ヲ爲シ之ヲ本人本籍地ノ聯隊區司令官ニ送付スヘシ

本籍地ノ聯隊區司令官前項ノ名簿ヲ受領シタルトキハ徵集、徵集延期、徵集免除又ハ兵役免除ノ處分ヲ爲シ徵集名簿ヲ服役スヘキ諸隊ヲ統轄スル師團長ニ、徵集免除者及兵役免除者ノ人名書及徵集延期名簿ヲ學校所在地所管ノ地方長官ニ、合格者及徵集延期者ノ人名書徵集免除名簿及兵役免除名簿ヲ本籍地所管ノ島司郡市長ニ送付スヘシ

第八條　本籍地ノ聯隊區司令官ハ徵集スヘキ者ニ付附錄第一樣式ノ合格證書ヲ作リ之ヲ學校所在地所管ノ地方長官ニ送付シ地方長官ハ同證書ヲ本人ニ付與スルモノトス

徵集延期、徵集免除若ハ兵役免除ニ屬スル者ニハ學校所在地所管ノ地方長官之ヲ達スルモノトス

第九條　服役スヘキ諸隊ヲ統轄スル師團長ハ合格者在職地ノ遠近ニ應シ之ヲ各隊ニ配付スルト共ニ學校所在地ノ地方長官ニ通知シ且其名簿ヲ當該隊長ニ送付スヘシ

地方長官ハ前項ノ通知ニ基キ本人ヲ該隊ニ入營セシムルモノトス

第九條ノ二　傷痍疾病其ノ他己ムヲ得サル事故ノ爲所定ノ期日ニ入營シ難キ場合ニ於テハ本人ヨリ證據書類ヲ添ヘ其ノ旨ヲ學校所在地所管ノ地方長官ヲ經テ服役スヘキ軍隊ヲ統轄スル師團長ニ屆出ヘシ其ノ屆書ニハ學校長ノ奥書證印ヲ受ケ傷痍疾病ノ者ニ在リテハ尚醫師ノ診斷證書ヲ添付スヘシ

第十條　六週間現役兵ノ入營期日ハ師團長地方長官ニ協議シ條例第二條ニ規定スル時日ノ範圍內ニ於テ之ヲ定メ毎年四月一日迄ニ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第十條ノ二　六週間現役兵入營ノ際施行スル身體檢査ニ於テ傷痍若ハ疾病ノ爲一週間以後ニ非サレハ教育ヲ施スヲ得スト認ムル者アルトキハ當該隊長之ヲ歸鄉セシメ其ノ旨ヲ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ通知シ聯隊區司令官ハ之ヲ學校所在地所管ノ地方長官ニ通知スヘシ

前項ニ依リ歸鄉セシメタル者ハ條例第二條但書ニ該ル者トシテ取扱フヘシ

第十一條　六週間現役兵退營スルトキハ聯隊長（獨立大隊ニ在リテハ其隊長以下同シ）ハ其ノ名簿ヲ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ送付シ聯隊區司令官ハ之ヲ島司郡市長ニ送付シ島司郡長ハ國民軍幹部適任証書所持者ト否トニ分チ其ノ人名ヲ町村長ニ通知スヘシ

第十二條　條例第六條ニ依リ國民軍幹部適任證書ヲ授與シタル者アルトキハ聯隊長其ノ旨ヲ六週間現役兵名簿ニ記載スヘシ其ノ國民軍幹部適任證書ハ附錄第二樣式ニ依リ調製スルモノトス

第十三條　小學校ノ教職ニ在リテ六週間現役ニ服スヘキ者服役中ノ者若ハ其ノ服役ヲ終リタル者滿二十八歲以下ニシテ其ノ教職ヲ罷メタルトキハ當該學校長ヨリ、他ノ小學校ニ轉職シタルトキハ轉職前後ノ各學校長ヨリ三日以內ニ其ノ旨ヲ其ノ學校所在地所管ノ地方長官ニ屆出テ同地方長官ハ之ヲ本人本籍地ノ市町村長ニ通達スルト共ニ六週間現役ニ服スヘキ者又ハ其ノ服役中ノ者ニ付テハ服役スヘキ諸隊又ハ服役中ノ諸隊ヲ統轄スル師團長ニ通知スヘシ

前項ノ屆出ナシト雖地方長官前項ニ該當スル者アルコトヲ知リタルトキハ前項ノ取扱ヲ爲スヘキモノトス

第十四條　國民軍幹部適任證書ヲ有スル者懲戒處分家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ賭博犯ニ依リ處分セラレタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ本籍地ノ島司郡市長ニ屆出ヘシ但シ町村ニ在リテハ町村長ヲ經由スヘキモノトス

島司郡市長前項ノ屆出ヲ受ケタルトキハ其ノ者ノ證書ヲ返還セシメ其ノ旨ヲ六週間現役兵名簿ニ記入シ且本籍地所管聯隊區司令官ニ之ヲ通知スヘシ

第一項ノ屆出ナシト雖島司郡市長又ハ町村長第一項該當者アルコトヲ知得シタルトキハ前項ノ取扱ヲ爲スヘキモノトス

第十五條　朝鮮臺灣樺太又ハ清國ニ在リテハ本令中師團長トアルハ朝鮮駐劄軍司令官、臺灣總督、樺太守備隊司令官又ハ關東都督ニ、地方長官トアルハ朝鮮總督府道長官、臺灣都督府民政長官、樺太廳長官、關東都督府民政長官又ハ領事官ニ該當ス

天津及其ノ附近ノ地ニ在職スル者ニ關スル第四條ノ取扱ニ付テハ本令中師團長トアルハ清國駐屯軍司令官ニ該當ス

第十六條　朝鮮臺灣樺太又ハ清國ニ在職スル者ハ左ノ區分ニ從ヒ服役セシム

朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ在職スル者ハ當該地ニ在ル步兵隊

關東州天津又ハ其ノ附近ノ地ニ在職スル者ハ關東州ニ在ル步兵隊

上海漢口又ハ其ノ附近ノ地ニ在職スル者ハ第十二師團步兵隊

第十七條　本令中聯隊區司令官トアルハ對馬警備隊區ニ在リテハ警備隊司令官、沖繩警備隊區ニ在リテハ警備隊區司令官ニ該當ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年ニ限リ第三條中臺灣樺太韓國及清國ニ在ル者ノ屆出期日ヲ三月十五日トス

（樣式略）

○陸軍六週間現役兵條例施行細則第三條ノ屆書記載事項ノ件

明治四十一年四月廿日
大分縣訓令第十一號

郡役所　町村役場　公立小學校

公立小學校長ニ於テ明治四十一年陸軍省令第三號陸軍六週間現役兵條例施行細則第三條ニ依リ屆出ヲ爲ストキハ該屆書ニ該當者ノ前年以前ニ於ケル徵兵假決ノ事項ヲ揭記スヘシ

但シ既ニ本文ノ屆出ヲ了シタルモノハ徵兵假決事項ヲ取調ヘ此際報告スヘシ

○陸軍六週間現役兵取扱手續

明治四十一年五月二日
大分縣訓令第十五號

郡役所　町村役場　公立小學校

第十二師管陸軍六週間現役兵取扱手續左ノ通定メラレ候ニ付本縣ニ於テモ施行スヘキ義ト心得ヘシ

第一款　總　則

第一條　本手續ハ六週間現役兵取扱ニ關シ其施行ヲ畫一ナラシムル爲之ヵ細件ヲ規定スルモノトス

第二條　本手續中細則トアルハ六週間現役兵條例施行細則ヲ謂フ

第三條　本手續中聯隊區司令官トアルハ警備隊司令官、郡市長トアルハ島司、町村長トアルハ戶長ニ適用ス

第二款　檢査準備

第四條　六週間現役兵ニ服スヘキモノニシテ毎年六月一日以後教職ニ就キタルモノハ翌年回トス（四十一年十二月訓令第四十六號ヲ以テ本條中改正）

五條　地方長官ハ其年六週間現役兵ニ服スヘキ見込人員ヲ調査シ二月一日マテニ聯隊區司令官ニ通知シ聯隊區司令官ハ其檢査ノ場所及日時ヲ徵兵署開設日割表備考欄內ニ記入スヘシ

但シ人員ハ該表中ニ記載セサルモノトス

六週現役兵ノ身體檢査ハ毎年四月三十日迄ニ教職ニ就キタル者ハ五月中ニ五月三十一日迄ニ教職ニ就キタル者ハ六月十五日迄ノ間ニ各一個所ニ纏メテ施行スルモノトス（四十一年十二月訓令第四十六號ヲ以テ本項中改正）

第六條　郡市長ハ細則第一條ニ依リ差出スヘキ屆書ヲ取纏メ附表ノ樣式ニ依ル連名簿ヲ附シ四月十五日迄ニ所管聯隊區司令官ニ送付スルモノトス

但シ爾後ニ係ハル分ハ其都度本文ノ取扱ヲナスモノトス

第七條　細則第四條ニ依リ地方長官ヨリ師團長ニ送附スル六週間現役兵名簿ニハ在職スル校名及其所在地名ヲ備考欄內ニ記入シ四月二十五日マテニ送附シ師團長ハ之ヲ五月一日マテニ聯隊區司令官ニ送附スルモノトス

但シ五月晝日マテニ教職ニ就キタル者ノ爲メニハ其都度本文ノ取扱ヲナスモノトス（四十一年十二月訓令第四十六號ヲ以テ本項中改正）

第八條　第十三條ニ該ル者ニシテ其翌年尙在職スル者ハ更ニ身體檢査ヲ施行スルモノトス（四十三年訓令第二十二號ヲ以テ本條改正）

第三款　入營準備及入營

第九條　聯隊區司令官ハ細則第七條ニ依ル名簿ハ之ヲ六月二十日マテニ本籍地聯隊區司令官ニ送附シ本籍地聯隊區司令官ハ六月三十日迄ニ同條第二項ノ取扱ヲナスモノトス但シ師團長ニ進達スル徵集名簿ニハ本籍地、在職地及生年月日ヲ記入シタル人名書ヲ添付スルモノトス（四十一年十二月訓令第四十六號ヲ以テ本條中改正）

第十條　師團長前條ノ名簿ヲ受ケタルトキハ之ヲ第十三條ニ定ムル隊長ニ送付ス

縣知事合格證書ノ送附ヲ受ケタルトキハ合格者ヲ入營セシムルノ取扱ヲナスモノトス

第十一條　六週間現役兵入營前名簿ニ關スル異動ヲ生シタルトキハ學校長ハ本人ヨリ異動屆書（戶籍謄本ヲ添付）ヲ徵シ郡市長ヲ經テ縣知事ニ呈出スルモノトス

縣知事前項ノ屆書ヲ受ケタルトキハ之ヲ服役スヘキ諸隊ヲ統轄スル師團長ニ通知ス

師團長ハ前項ノ通知ニ接シタルトキハ直ニ之ヲ入營スヘキ隊長ニ通達スルモノトス

第十二條　六週間現役兵ノ入營ハ毎年七月十五日午前十時トス

第十三條　六週間現役兵ハ左ノ通入營セシム

小倉聯隊區管內奉職者	步兵第十四聯隊
福岡聯隊區管內奉職者	步兵第二十四聯隊
中津聯隊區管內奉職者	步兵第四十七聯隊
大分聯隊區管內奉職者	步兵第七十二聯隊

對馬警備隊區管內奉職者　對馬警備步兵大隊

第十四條　六週間現役兵入營期ニ際シ疾病其他ノ事故ニ依リ入營シ難キトキ疾病ノ者ハ醫師ノ診斷書事故ノ者ハ其事由ヲ詳記シタル書面ヲ添ヘ學校長ヲ經テ縣知事ニ屆出テ同時ニ本籍地ノ市町村長ニ通知スルモノトス

町村長ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ郡長ニ報告スルモノトス

第十五條　縣知事前條ノ屆出ヲ受ケタルトキハ之ヲ服役スヘキ諸隊ヲ統轄スル師團長ニ通知スルモノトス

師團長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ既ニ名簿送附後ナルトキハ之ヲ入營スヘキ隊長ニ達ス隊長ハ直ニ本人ノ名簿ヲ本籍地ノ聯隊區司令官ニ返附シ聯隊區司令官ハ之ヲ學校所在地所管ノ縣知事ニ返送スルモノトス

第四款　退營及退營後ノ取扱

第十六條　郡長ハ聯隊區司令官ヨリ細則第十一條ニ依リ名簿ノ送附ヲ受クルトキハ人名其他必要ノ事項ヲ町村長ニ達スヘシ

第十七條　細則第十四條該當者ノ適任證書ハ郡市長之ヲ聯隊區司令官ニ送附スルモノトス

聯隊區司令官前項證書ノ送附ヲ受ケタルトキハ之ヲ附與セシ隊長ニ還附スルモノトス

（附表樣式）

明治何年度　六週間現役兵ニ服スヘキ者ノ連名簿

卒業當時ノ師範學校名	本籍地	在職學校名	現住地	氏名
何師範學校	何郡(市)何町(村)	何小學校	何郡(市)何町(村)	某
………	………	………	………	………

○陸軍一年志願兵條例

（明治三十七年九月勅令第二一四號、明治四十一年十月同第二六四號、明治四十二年三月同第號五、號明治四十四年十月同第二百七十一號改正）

明治三十七年三月廿八日勅令第八十四號

第一條　徵兵令第十三條ニ依リ一年志願兵ト爲ル者ハ志願ノ際本籍ノ在ル師管內ノ軍隊ニ於テ服役セシム但シ軍事上ノ必要アルトキハ他ノ師管內ノ軍隊ニ於テ服役セシムルコトアルヘシ

第二條　一年志願兵ノ兵科ハ本人ノ冀望ト軍事上ノ必要トニ依リ之ヲ定ム

第三條　一年志願兵出願者ニシテ左ノ各號中第一號ニ該當スル者ハ主計生、第二號ニ該當スル者ハ軍醫生、第三號ニ該當スル者ハ藥劑生、第四號ニ該當スル者ハ獸醫生タラムコトヲ志願スルコトヲ得

一　專門學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於テ法律又ハ經濟ノ課程ヲ卒業シタル者

二　醫師免許証ヲ有シ又ハ之ヲ受クヘキ資格アル者

三　藥劑師免狀ヲ有シ又ハ之ヲ受クヘキ資格アル者

四　獸醫免狀ヲ有シ又ハ之ヲ受クヘキ資格アル者

第四條　一年志願兵ハ營內ニ居住セシム但シ入營後概ネ四箇月ヲ經過シタル者ニシテ家事其ノ他ニ關シ已ムヲ得サル事故アルトキハ聯隊長之ニ外泊ヲ許シ通勤セシムルコトヲ得

第五條　一年志願兵ニハ給料、入營旅費及歸鄉旅費ヲ給セス

第六條　一年志願兵ニハ所屬隊ニ於テ糧食、彈藥ヲ給シ兵器、被服等ヲ貸與ス

第七條　一年志願兵ノ服役ニ關スル費用ハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ納付セシム

第八條　一年志願兵ハ現役滿期ノ後六年四箇月豫備役ニ、豫備役滿期後十箇年後備役ニ服セシム但シ第二十七條及第二十八條ニ依リ豫備役ニ編入セラレタル者ノ豫備役年期ハ現役期間ヲ通算シテ七年四箇月トス

第九條　一年志願兵タラントスル者ハ本籍所在師管ノ師團長ニ願出テ身體檢査又ハ身體檢査及學術試驗ヲ受クヘシ但シ其ノ檢査及試驗ハ寄留地所在師管ニ於テ之ヲ受クルコトヲ得

前項出願ノ期日手續竝檢査及試驗ニ關スル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十條　本籍所在師管ノ師團長ハ合格ノ者ニハ一年志願兵認定證書ヲ付與シ不合格ノ者ニハ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第十一條　一年志願兵認定證書ヲ有スル者入營前左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ認定證書ヲ返還セシム

一　傷痍又ハ疾病ニ依リ服役ニ堪ヘ難キトキ

二　陸海軍ノ兵籍ニ編入スヘキ諸生徒候補生等ヲ命セラレタルトキ

三　本人ヲ要スルニ非ラサレハ一家ノ生計ヲ營ミ難キトキ

第十二條　一年志願兵ノ入營期日ハ毎年十二月一日トス但シ戰時又ハ事變ノ際其ノ他必要ノ場合ニ於テハ之ヲ變更スルコトアルヘシ

第十三條　一年志願兵認定證書ヲ有スル者傷痍疾病其他止ムヲ得サル事故ニ依リ所定ノ期日ニ入營シ難キトキハ其ノ入營ヲ延期スルコトヲ得

第十四條　入營ヲ延期セラレタル者十二月三十一日迄ニ入營シ難キトキハ翌年入營セシム

前項ニ依リ翌年入營セシムヘキ者仍其ノ年ニ於テ入營シ難キトキハ一年志願兵認定證書ヲ返還セシム

第十五條　（削除）

第十六條　一年志願兵ノ教育ハ聯隊長其ノ責ニ任ス

第十七條　一年志願兵ハ入營後四箇月一般ノ兵卒ト同一ノ教育ヲ爲シ之ニ一等卒ヲ命シ二箇月以上通常教育ノ外特別ノ教育ヲ爲シ之ニ上等兵ヲ命シ下士及士官ノ勤務ヲ練習セシム其ノ成績優秀ナルトキハ伍長ノ階級ニ進ムルコトヲ得

一等卒上等兵ヲ命シ又ハ伍長ノ階級ニ進ムルハ聯隊長ニ於テス

第十八條　第三條第一號、第二號又ハ第三號ニ該當スル者ハ步兵隊ニ於テ、同條第四號ニ該當スル者

ハ騎兵隊、砲兵隊又ハ輜重兵隊ニ於テ六箇月間前條ニ依リ教育ヲ爲シタル後上等兵ヲ命シ之ヲ主計生、軍醫生、藥劑生又ハ獸醫生ト爲シ各專門ニ關スル下士及士官ノ勤務ヲ練習セシム

主計生ハ師團經理部長、軍醫生及藥劑生ハ師團軍醫部長、獸醫生ハ師團獸醫部長師團長ノ認可ヲ受ケ之ヲ命ス

第一項ノ期間ハ戰時又ハ事變ニ際シテハ之ヲ四箇月ニ短縮スルコトヲ得

第十九條　專門勤務ニ關スル教育ハ主計生ニ在リテハ隊附高級主計、軍醫生ニ在リテハ隊附高級醫官、藥劑生ニ在リテハ衛戍病院長、獸醫生ニ在リテハ隊附高級獸醫官各其ノ責ニ任シ師團經理部長、師團軍醫部長、師團獸醫部長各其ノ教育ヲ監督ス

第二十條　專門勤務ヲ練習スル者ニシテ其ノ成績優秀ナルトキハ其ノ教育ヲ監督スル諸官ニ於テ主計生ハ三等計手ノ階級ニ、軍醫生藥劑生ハ三等看護長ノ階級ニ、獸醫生ハ三等蹄鐵工長ノ階級ニ進ムルコトヲ得

第二十一條　一年志願兵ハ戰時又ハ事變ニ際シ通常ノ現役勤務ニ服セシムルコトアルヘシ此場合ニ於テハ階級相當ノ給料ヲ給シ服役ニ關スル費用ハ之ヲ官費トス

第二十二條　一年志願兵ハ現役滿期前終末試驗ヲ施行ス其ノ方法ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第二十三條　終末試驗ヲ終リタルトキハ試驗ノ成績ト平素ノ勤務トヲ參酌シ及第者ハ豫備役編入ノ際各兵科ノ者ニ在リテハ軍曹ニ、主計生ニ在リテハ二等計手ニ、軍醫生及藥劑生ニ在リテハ二等看護長ニ、獸醫生ニ在リテハ二等蹄鐵工長ニ任ス

終末試驗ニ及第セサル者ニシテ下士ノ技能アル者ハ豫備役編入ノ際各兵科ノ者ニ在リテハ伍長ニ、主計生ニ在リテハ三等計手ニ、軍醫生及藥劑生ニ在リテハ三等看護長ニ、獸醫生ニ在リテハ三等蹄鐵工長ニ任シ主計生ニシテ下士ノ技能ナキ者ハ之ヲ免ス

前二項ニ依リ下士ニ任シ又ハ主計生、軍醫生、藥劑生、獸醫生ヲ免スルハ師團長ノ命ニ依リ主計生ニ在リテハ師團經理部長、軍醫生及藥劑生ニ在リテハ師團軍醫部長、獸醫生ニ在リテハ師團獸醫部長、其ノ他ニ在リテハ聯隊長之ヲ爲スモノトス

第二十四條　一年志願兵ニシテ傷痍疾病等ニ因リ終末試驗ヲ受ケサル者ハ現役滿期後一箇年以內ニ於テ終末試驗ヲ受クルコトヲ得

前項ニ依リ終末試驗ヲ受ケタル者ハ前條ノ例ニ依ル

第二十五條　前條ニ依リ終末試驗ヲ受ケサル者ハ第二十三條第二項及第三項ニ準シ伍長同相等官ニ任シ又ハ主計生、軍醫生、藥劑生、獸醫生ヲ免ス

第二十六條　一年志願兵ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ第十七條及第十八條ノ例ニ依ラス二等卒ト爲シ一般ノ兵卒ト同一ノ教育ヲ爲シ且必要ニ應シ現役滿期ノ後每年六十日間勤務演習ノ爲召集ス之ニ要スル費用ハ自辨トス

一　怠慢ニシテ勤務習得ノ見込ナキ者

二　軍紀ヲ紊リ、屢法則ヲ犯シ又ハ品行不正ニシテ改悛ノ見込ナキ者

前項ニ依リ勤務演習ニ召集スル者ニハ第五條、第六條及第七條ノ規定ヲ準用ス

第二十七條　一年志願兵中第十一條第三號ニ該當スル者アルトキハ師團長ハ聯隊長ヲシテ其ノ現役ヲ免シ豫備役ニ編入セシム

第二十八條　一年志願兵中傷痍又ハ疾病ニ因リ服役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ師團長ハ聯隊長ヲシテ現役ニ堪ヘサル者ハ豫備役ニ編入シ常備後備ノ役ニ堪ヘサル者ハ其ノ役ヲ免シ第二國民兵役ニ服セシ

メ永久服役ニ堪ヘサル者ハ兵役ヲ免セシム

第二十九條　前二條ニ依リ豫備役ニ編入スル者ハ第二十三條第二項及第三項ニ準シ伍長同相當官ニ任シ又ハ主計生、軍醫生、藥劑生、獸醫生ヲ免ス

第三十條　本條例ニ規定スルモノノ外一年志願兵ト爲リタル者ノ士官又ハ下士ノ任官ニ關シテハ陸軍補充條例、豫備後備ノ服役ニ關シテハ陸軍服役條例ノ規定ニ依ル

第三十一條　本條例中聯隊長トアルハ獨立大隊ニ在リテハ其ノ隊長ニ該當ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際服役中ノ者翌年回トナリタル者及明治三十七年出願ニ係ル一年志願兵ノ服役スヘキ兵科及衛戍地ニ關シテハ從前ノ規定ニ依ル

明治三十七年一年志願兵ヲ出願シタル者ノ身體檢査及學術試驗竝認定証書ノ付與ニ關シテハ從前ノ規定ニ依ル

本令施行ノ際既ニ官費服役ヲ許可シタル者ハ其ノ服役ノ費用ニ關シテハ從前ノ規定ニ依ル

本令施行ノ際既ニ現役ヲ終リ又ハ免セラレタル者ノ服役ニ關シテハ從前ノ規定ニ依ル

臺灣總督府國語學校土語科ノ卒業證書ヲ有スル者ハ當分臺灣ニ於テ身體檢査ヲ受ケ臺灣守備步兵隊ニ於テ服役スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ本條例中師團長トアルハ臺灣守備隊司令官ニ該當ス但シ第九條ノ願書ハ本籍所在師管ノ師團長ニ差出スヘキモノトス

○陸軍一年志願兵條例施行細則

明治三十七年三月廿九日
陸軍省令第十三號

（明治三十八年二月陸軍省令第四號、明治三十九年十月同第十一號、明治四十二年三月同第五號、明治四十三年十月同第十號、明治四十四年同第十號改正）

第一條　一年志願兵ハ年額百八圓（臺灣ニ於テ服役スル者ニ在リテハ百二十九円）ヲ入營スル月ノ前月盡日迄ニ所屬隊ニ納ムヘシ

前項ノ納金ハ當該部隊ニ於テ歲入納付ノ手續ヲ爲スヘシ

第二條　前條第一項ノ納金ハ服役ニ關スル費用ノ實費ト看做シ追徵若クハ還付セス但シ入營前死亡シ又ハ其ノ入營ヲ翌年ニ延期シ若クハ認定證書ヲ返還セシメタルトキハ納金ノ全額、服役中陸軍一年志願兵條例第二十一條ニ依リ通常ノ現役勤務ニ服スルトキハ其ノ當月ヨリ官給期間ニ係ル既納金額（月割計算法ニ依ル以下同シ）餘隊若ハ死亡シタルトキハ其ノ當月以後ニ係ル既納金額ヲ本人又ハ遺族ニ拂戻スモノトス

第三條　陸軍一年志願兵條例第二十六條ニ依リ勤務演習ニ召集スル場合ニハ前二條ヲ準用ス但シ其ノ納ムヘキ金額ハ月割計算法ニ依リ二月分トス

第四條　一年志願兵ヲ出願スル者ハ其ノ願書（附錄第一樣式）ニ戸籍謄本、履歷書（附錄第二樣式）ヲ添ヘ（學術試驗ヲ要スル者ニ在リテハ六月十日迄、其他ノ者ニ在リテハ七月十日迄）ニ本籍地ノ市町村長ニ差出スヘシ

前項ノ願書ニハ徵兵令第十三條ノ學校卒業者ニ在リテハ學校長ノ卒業證明書、戸主ニ非ラサル者ハ戸主、未成年者ニ在リテハ親權者ノ服役承認證（附錄第三樣式）ヲ添付スヘシ

市町村長ハ志願者ノ身元資產及犯罪ノ有無等ヲ調査シ證明書（附錄第四樣式）ヲ製シ又他師管ニ全戸寄留ノ者ニ在リテハ其ノ師管名及寄留ノ年月日ヲ付記シ願書ニ添附シ學術試驗ヲ要スル者ニ在リテハ七月十日迄、其ノ他ノ者ニ在リテハ八月五日迄ニ師團長ニ到著スル如ク島司、郡長、聯隊區司令官ヲ經テ之

ヲ差出スヘシ

第五條　前條ノ志願者ニシテ徵兵令第十三條ノ學校ヲ卒業セサル者ハ其ノ年十月三十一日迄ニ卒業スヘキ者ニ限リ學校長ノ證明書ヲ以テ卒業證明書ニ代フルコトヲ得但シ卒業ノ上ハ直ニ學校長ノ卒業證明書ヲ添ヘ師團長ニ屆出ツヘシ

第六條　師團長ハ志願者中學術試驗ヲ要スル者ノ人員ヲ檢査ヲ爲スヘキ師管ニ區分シ之ヲ八月一日迄ニ陸軍將校生徒試驗常置委員長ニ通知シ他ノ師管ニ於テ檢査ヲ受ケムトスル者ノ人名及必要ノ事項ヲ當該師管ノ師團長ニ八月二十日迄ニ通知スヘシ

第七條　陸軍將校生徒試驗常置委員長前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ試驗問題ヲ師團長ニ送付スヘシ

第八條　志願者中學術試驗ヲ受クヘキ者及徵兵檢査ニ依ラス身體檢査ヲ受クヘキ者ハ檢査期日前檢査地ニ到著シ書面ヲ以テ其ノ止宿所ヲ檢査地所管師團司令部ニ屆出ヘシ但シ檢査地ニ現住ノ者ト雖本文ニ準シ屆出ヘシ

第九條　師團長ハ軍醫ヲシテ志願者ノ身體檢査ヲ行ハシメ尙身體檢査合格者中學術試驗ヲ要スル者ハ部下ノ將校同相當官ニ試驗委員ヲ命シ其ノ試驗ヲ行ハシム但シ其ノ年徵兵檢査ニ於テ甲種又ハ乙種ニ合格シタル者ニ在リテハ其ノ結果ニ從ヒ別ニ身體檢査ヲ行ハサルモノトス

學術試驗ヲ受クヘキ者ハ新ニ單身脫帽ニテ撮影シタル寫眞紙（手札形）ノ裏面ニ族籍氏名ヲ自書シ學術試驗ノ際試驗委員ニ差出スヘシ

聯隊區司令官ハ徵兵檢査ニ於テ甲種又ハ乙種ニ合格シタル志願者ノ壯丁名簿寫ヲ師團長ニ差出シ他ノ師管ニ於テ學術試驗ヲ受クヘキ者ニ在リテハ尙其ノ結果ヲ速ニ當該受驗地所管ノ師團長ニ通知スヘシ

第十條　一年志願兵出願者ノ檢査場ハ師團司令部所在ノ衛戍地トシ其ノ身體檢査期日ハ九月四日學術試驗期日ハ九月五日トス

第十一條　學術試驗ヲ要セサル者ハ檢査場ノ變更ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ八月十日迄ニ本籍所在師管ノ師團長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第十二條　師團長前條ノ願ヲ許可シタル場合ニ於テ第六條ノ他師管內受驗者ノ通知ニ變更ヲ要スルトキハ八月二十日迄ニ關係師團長ニ通知スヘシ

第十三條　師團長ハ檢査ヲ終リタルトキハ十月一日迄ニ合格人員表（附錄第七樣式）ヲ調製シ陸軍大臣ニ報告スヘシ但シ他ノ師管在籍者ノ成績ハ學術受驗者ニ在リテハ之ニ寫眞紙ヲ添ヘ同日迄ニ受驗者本籍所在師管ノ師團長ニモ通知スヘシ

第十四條　陸軍大臣ハ前條ノ合格人員表ニ依リ一年志願兵配當表ヲ作リ師團長ニ通達ス

師團長前項ノ通達ヲ受ケタル時ハ一年志願兵認定證書（附錄第五樣式）ヲ本人ニ付與スヘシ但第五條ニ依リ學校長ノ證明書ヲ以テ卒業証明書ニ代用スル者ニアリテハ卒業ノ屆出ヲ爲シタル後之ヲ付與スヘキモノトス

第十五條　他ノ師管ニ於テ服役スヘキ者ノ認定證書ハ本籍所在師管ノ師團長之ヲ付與シ其ノ人名書ニ體格檢査表又ハ壯丁名簿寫、願書其ノ他必要ノ書類ヲ添ヘ速ニ當該師團長ニ送付スヘシ

第十六條　師團長前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ更ニ入營命令（附錄第六樣式）ヲ作リ本人ニ送付スヘシ

第十七條　一年志願兵ヲ各師管、各軍隊ニ配賦スルニハ左ノ各號ヲ參酌スルモノトス但シ主計生タラムコトヲ希望スル者ハ師團司令部所在地ノ步兵隊ニ配賦スルモノトス

一　軍事上ノ必要

二　志願者ノ希望

三　兵科毎ニ成ルヘク各隊ノ人員ヲ平等ニスルコト

四　特別ノ技術ヲ修メ若ハ其ノ實驗ヲ有スル者ハ其ノ技術ヲ必要トスル部隊ニ配賦スルコト例ヘハ鐵道隊工兵隊等ニハ成ルヘク電氣、機械ニ關スル技能アル者ヲ配賦スル等、電氣、機械、冶金採鑛、物理ニ關スル技能アル者、重砲兵隊ニハ成ルヘク電氣、機械ニ關スル技能アル者ヲ配賦スル等

第十八條　師團長ハ其ノ師管內ノ軍隊ニ於テ服役スヘキ者ノ人名書ニ其ノ體格檢査表又ハ壯丁名簿寫願書其ノ他必要ノ書類ヲ添ヘ入營前聯隊長ニ下付スヘシ但シ近衛師團ニ於テ服役スヘキ者ニ關スル書類ハ第一師團長ヨリ近衛師團長ニ送付シ同師團長ニ於テ下付ノ手續ヲ爲スモノトス

第十九條　一年志願兵出願後入營迄ノ間ニ轉籍、轉住、氏名變更、犯罪、死亡其ノ他願書及添付書類ニ記載セル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ本人又ハ親族ヨリ認定證書付與前ニ在リテハ本籍所在師管ノ師團長ニ、認定證書付與後ニ在リテハ服役スヘキ師管ノ師團長ニ屆出ツヘシ

第二十條　條例第十一條第一號ニ該當スルトキハ在職軍醫ノ診斷證書、軍醫有ラサル地ニ在リテハ醫師ノ病況書同第二號ニ該當スルトキハ學校又ハ官廳等ノ證明書、第三號ニ該當スルトキハ近隣戶主二名ノ保證書ヲ添附シ本籍地ノ市町村長、島司、郡長、聯隊區司令官ヲ經テ服役スヘキ師管ノ師團長ニ屆出ツヘシ

島司、郡市町村長ハ前項ノ病況書又ハ保證書ニ記載セル事實ヲ審覈シ市町村長ニ在リテハ狀況書、島司、郡長ニ在リテハ意見書ヲ作リ屆書ト共ニ聯隊區司令官ニ送付シ聯隊區司令官ハ該狀況書及意見書ニ尙其ノ意見ヲ添付シ師團長ニ進達スヘシ

第二十一條　條例第十三條ニ依リ入營ノ延期ヲ願出テムトスルトキハ願書ニ證據書類ヲ添ヘ本籍地市町村長、島司郡長、聯隊區司令官ヲ經テ服役スヘキ軍隊所管ノ師團長ニ差出スヘシ

市町村長ハ前項ノ願書ニ證印ヲ爲スヘキモノトス

第二十二條　師團長一年志願兵入營前認定證書ヲ返還セシメントスルトキハ本籍地ノ聯隊區司令官ニ其ノ旨ヲ通知シ聯隊區司令官ハ本人ヘ其ノ返還ヲ命スヘシ

第二十二條ノ二　一年志願兵入營ノ際施行スル身體檢査ニ於テ傷痍若ハ疾病ノ爲二箇月以後ニ非サレハ教育ヲ施スヲ得スト認ムル者アルトキハ當該聯隊長之ヲ歸鄉セシメ其ノ旨ヲ直ニ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ通報スヘシ

前項ニ依リ歸鄉セシメタル者ハ條例第十四條第一項ニ該ル者トシテ取扱フヘシ

第二十二條ノ三　條例第四條但書ニ依リ外泊ヲ願出テムトスル者ハ願書ニ証據書類ヲ添ヘ本籍地市町村、島司、郡長、聯隊區司令官ヲ經テ聯隊長ニ差出スヘシ

市町村長ハ前項ノ願書ニ証印ヲナスヘキモノトス

第二十三條　聯隊長條例第二十八條ニ依リ常備後備ノ役ヲ免シ又ハ兵役ヲ免シタルトキハ之ヲ本籍地ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第二十四條　聯隊長ハ一年志願兵中所定ノ期日ニ入營セサル者アルトキハ之ヲ師團長ニ報告シ尙本籍地ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第二十五條　師團長ハ一年志願兵人員表附錄第八樣式及一年志願兵終末試驗成績表附錄第九樣式ヲ毎年一月三十一日迄ニ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第二十六條　（削除）

第二十七條　一年志願兵認定證書ヲ有スル者入營シタルトキ又ハ翌年回ト爲リタルトキハ十四日以內ニ本籍地ノ市町村長ニ屆出ツヘシ

第二十八條　一年志願兵ニシテ條例第十一條第三號ニ該當スルトキハ聯隊長ニ屆出ツヘシ此ノ場合ニ

在リテハ第二十條ヲ準用ス

第二十九條　本則中聯隊長トアルハ獨立隊ニ在リテハ該隊長、聯隊區司令官トアルハ警備隊區ニ在リテハ警備隊司令官又ハ警備隊區司令官、島司又ハ郡長トアルハ北海道ニ在リテハ支廳長又ハ區長、沖縄縣ノ區ニ在リテハ區長、島司又ハ郡長ヲ置カサル島嶼ニ在リテハ島司又ハ郡長ニ準スヘキ者、市長トアルハ東京市、京都市、大阪市、名古屋市ニ在リテハ區長、町村長トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ町村長ニ準スヘキ者ニ該當ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際入營延期又ハ翌年回ト爲リタル者及明治三十七年志願ニ係ル一年志願兵ニシテ舊一年志願兵條例施行細則ノ規定ヲ適用スヘキモノハ從前ノ規定ニ依ル

明治三十七年志願ニ係ル一年志願兵中條例第三條第一號ニ該當スル者主計生タラムトスルトキハ證明書類ヲ添ヘ入營一箇月前迄ニ服役スヘキ軍隊所管ノ師團長ニ願出ツヘシ

前項ノ願ヲ許可セラレタル者ハ師團司令部所在地ノ步兵隊ニ於テ服役セシム

條例附則ニ依リ臺灣ニ於テ服役スル者ニ關シテハ第五條第九條第一項第十一條第十二條第十八條乃至第二十條第二十二條第二十四條及第二十五條中師團長トアルハ臺灣守備隊司令官ニ該當シ、第四條ノ願書其ノ他ノ書類及壯丁名簿寫ハ本籍所在師管ノ師團長ヨリ臺灣守備隊司令官ニ送附シ、第八條ノ屆書ハ其ノ地ノ守備隊司令部ニ差出シ、檢査ハ臺灣守備隊司令官適宜當該司令部所在地ニ召集シテ之ヲ行ヒ、認定證書ハ檢査終了後臺灣守備隊司令官ニ於テ適宜之ヲ付與シ、第二十一條ノ書類ハ直接臺灣守備隊司令官ニ差出スモノトス

第一樣式（用紙ハ美濃白紙）

一年志願兵服役願

某　儀

徵兵令第十三條ニ依リ服役中ニ關スル費用全額ヲ自辨シ一年志願兵トシテ服役致度候間御諚可相成度

別紙所要書類相添此段奉願候也

追テ一年志願兵條例第二十六條ニ依リ勤務演習ノ爲召集セラルヽ場合ニ於テハ之ニ要スル費用モ自辨可致候也

年　月　日

本籍地　府（縣）郡（市）町（村）番地華（士）族（平民）

寄留地　府（縣）郡（市）町（村）番地

氏　名　印

第何師團長爵氏名殿

年　月　日生

追テ左ノ通希望致候也

一　受驗場　何　地

二　冀望兵科　第一何兵（主計生、軍醫生、藥劑生、獸醫生）

第二何兵（冀望者ハ其ノ旨ヲ記スヘシ）

受驗場ハ本籍地師管內又ハ寄留地師管內ニ限ル但シ臺灣ニ於テ服役セムトスル者ハ臺灣守備隊司令部所在地トス

第二樣式（用紙ハ美濃白紙）

履　歷　書

一　何年月日何學校ヘ入學何年月日同校卒業
一　何年月日何所ニ於テ何何研究
一　何年月日何ニ從事ス
一　一年志願兵ニ關スル件左ノ如シ
一　未タ出願セシコトナシ
一　何年何師管ニ於テ何々ノ爲不採用
一　何年一年志願兵認定證書ヲ受領セシモ何何ノ爲服役セス
一　何年月日何ニ依リ賞(罰)等
(右ノ外履歷ニ關スル事項ハ殊ニ本則第十七條第四號ニ掲クル特別ノ技術ニ關シテハ其ノ修學又ハ實驗ノ事項ヲ詳記スヘシ)

右之通相違無之候也

年　月　日　　氏　　名　印

第三樣式(用紙ハ美濃紙)

一年志願兵服役承認書

年　月　日生

氏　　名

右者一年志願兵トシテ服役ノ儀承認致候就テハ服役並一年志願兵條例第二十六條ニ依リ勤務演習ニ要スル費用ハ無相違上納可爲致候也

本籍地　府(縣)郡(市)町(村)番地

寄留地　府(縣)郡(市)町(村)番地

年　月　日

戶主　氏　　名　印

二十歲未滿ノ志願者ニ在リテハ戶主及親權ヲ行フ者ノ連署ヲ要ス此ノ塲合ニハ氏名ノ上ニ「親權者」ト記載スヘシ

第四樣式

身元證明書

氏　　名

一　賞罰ニ關スル事項ハ履歷書ノ通
一　戶主或ハ本人何種公債證書或ハ株券金額何千何百圓ヲ所有スル等
一　戶主或ハ本人官廳或ハ會社等ヨリ受クル給料何千何百圓等
一　何々ノ所得年額何千何百圓等

右相違無之ニ付一年志願兵服役中ノ費用金額ヲ自辨シ得ルコトヲ證明ス

年　月　日　　府縣郡市町村長　氏　　名　印

(第五樣式以下略)

○砲兵工廠軍用銃及火藥類拂下手續抄

明治三十二年八月十八日陸軍省令第二十三號

第一條　砲兵工廠ハ本年勅令第三百六十六號及本年內務省令第四十三號ニ依リ廳府縣長官又ハ警察官

署ノ免許若クハ許可ヲ得タル者火藥類ノ拂下ヲ願出ルトキハ左ニ列記スルモノニ限リ許可スルコトヲ得

一　私立中學校以上及之ト同等ノ資格アル私立學校

第二條　砲兵工廠ハ官廳公署、官公立中學校以上若クハ之ト同等ノ資格アル官公立學校ヨリ火藥類拂渡ノ請求ヲ受クルトキハ之ニ應スルコトヲ得

第三條　砲兵工廠ハ官廳公署、官公立中學校以上若クハ之ト同等ノ資格アル官公立學校其他本年勅令第三百六十六號及本年內務省令第四十三號ニ依リ廳府縣長官又ハ警察官署ノ免許若クハ許可ヲ得タル者ヨリ軍用銃ノ拂下ヲ願出ルトキハ之ニ應スルコトヲ得

（參照）

明治三十二年勅令第三百六十六號ハ銃砲火藥類取締法施行規則、同年內務省第四十三號ハ銃砲火藥類取締法施行細則ナリ

○年齡計算ニ關スル件

明治三十五年十二月一日法律第五十號

年齡ハ出生ノ日ヨリ之ヲ起算ス

民法第百四十三條ノ規定ハ年齡ノ計算ニ之ヲ準用ス

明治六年第三十六號布告ハ之ヲ廢止ス

○閏年算定方

明治三十一年五月十日勅令第九十號

神武天皇即位紀元年數ノ四ヲ以テ整除シ得ヘキ年ヲ閏年トス但シ紀元年數ヨリ六百六十ヲ減シテ百ヲ以テ整除シ得ヘキモノノ中更ニ四ヲ以テ其ノ商ヲ整除シ得ナル年ハ平年トス

○褒章條例

明治十四年十二月七日大政官布告第六十三號

第一條　凡ソ自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助シタル者又ハ孝子順孫節婦義僕ノ類ニシテ德行卓絕ナル者又ハ實業ニ精勵シ衆民ノ模範タルヘキ者又ハ學術技藝上ノ發明改良著述、教育衞生慈善防疫ノ事業、學校病院ノ建設、道路河渠堤防橋梁ノ修築、田野ノ墾闢、森林ノ栽培、水產ノ繁殖、農商工業ノ發達ニ關シ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者又ハ公同ノ事務ニ勤勉シ勞效顯著ナル者ヲ表彰スル爲メ左ノ三種ノ褒章ヲ定ム

紅綬褒章

右自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助シタル者ニ賜フモノトス

綠綬褒章

右孝子順孫節婦義僕ノ類ニシテ德行卓絕ナル者又ハ實業ニ精勵シ衆民ノ模範タルヘキ者ニ賜フモノトス

藍綬褒章

右學術技藝上ノ發明改良著述、教育衞生慈善防疫ノ事業、學校病院ノ建設、道路河渠堤防橋梁ノ修築、田野ノ墾闢、森林ノ栽培、水產ノ繁殖、農商工業ノ發達ニ關シ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者又ハ公同ノ事務ニ勤勉シ勞效顯著ナル者ニ賜フモノトス（明治二十七年勅令第一號ヲ以テ改正）

第二條　奇特ノ實行アリト雖モ褒章ヲ賜フヘキ場合ニ至ラサルモノハ褒狀ヲ與フコトアルヘシ

第三條　已ニ褒章ヲ賜ハリタルモノ再度以上同樣ノ實行アリテ褒章ヲ賜フヘキトキハ其都度飾版一箇ヲ賜與シ其章ノ綬ニ附加セシメ以テ標識トス

第四條　褒章ハ本人ニ限リ終身之ヲ佩用シ及徽號トナスヲ得然レトモ重罪ノ刑ニ處セラレタル片ハ之ヲ沒收シ其未タ授與セサル前同上ノ刑ニ處セラレタル者ニハ之ヲ授與セス（褒章ノ圖及佩用式略ス）

○褒章條例取扱手續

明治二十七年一月六日
閣令　第一號

第一條　褒章條例ニ依リ褒章ヲ賜フヘキ者アルトキハ警視總監北海道廳長官又ハ府縣知事ヨリ主務大臣ニ具申シ主務大臣ハ其ノ當否ヲ審査シ賞勳局總裁ヘ申牒スヘシ

但官吏職務上ノ勞效ニ對シテハ褒章ヲ賜フノ限ニアラス

第二條　賞勳局總裁ハ申牒書ヲ覆覈シ褒章ヲ賜フヘキモノト認ムルトキハ奏請裁可ヲ得在東京ノ者ニハ之ヲ直授シ其他ノ者ニハ主務大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達スヘシ

第三條　外國人ニ褒章ヲ賜フヘキトキハ主務大臣外務大臣ト連署シテ之ヲ申牒スヘシ授與ノトキハ外務大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達ス其ノ公私傭ニ係ル者ハ第二條ニ依ル

第四條　褒狀ハ高等官及高等官待遇ノ者竝ニ從六位以上及勳六等以上ノ者竝ニ華族ノ戶主其ノ祖父母父母妻嫡長子孫及嫡長子孫ノ妻ニハ賞勳局總裁之ヲ授與スヘシ其具申申牒施行ノ順序ハ第一條及第二條ニ同シ

其ノ他ノ者ハ警視總監北海道廳長官又ハ府縣知事之ヲ授與スヘシ

第五條　褒狀ヲ外國人ニ授與スヘキトキハ金銀木杯金圓賜與手續第六條ニ依ル

第六條　褒章ヲ有スル者重罪ノ刑ヲ受タルトキハ裁判確定ノ後司法大臣又ハ陸海軍大臣宣告書寫ヲ添ヘ之ヲ賞勳局總裁ニ還付スヘシ

第七條　褒章褒狀ヲ賜フヘキ者具申後授與以前ニ於テ輕罪以上ノ罪ヲ犯シ又ハ死亡シタルトキハ警視總監北海道廳長官又ハ府縣知事ヨリ速ニ其ノ事由ヲ主務大臣ニ申報シ主務大臣ハ之ヲ賞勳局總裁ニ通知スヘシ

○褒章ト金銀木杯金圓賜與方

明治十六年一月四日
太政官布告第一號

明治十四年十二月第六十三號布告褒章條例ニ依リ褒章ヲ賜フヘキ者又ハ公益ノ爲ニ金穀財產等ヲ寄附シタル者ハ金銀木杯若クハ金圓ヲ賜ヒ又ハ褒章ト金銀木杯金圓ヲ併セ賜フコトアルヘシ

右奉　勅旨布告候事

○醫術開業試驗規則

明治十六年十月廿三日
太政官布達第卅四號

第一條　醫術開業試驗ヲ受ケントスル者ハ此規則ニ據ルヘシ

（明治十七年一月太政官布達第二號、明治廿二年五月內務省令第七號、明治二十四年一月內務省令第一八號、明治二十六年四月內務省令第四號、明治二十六年六月內務省令第九號、明治三十年四月內務省令第八號、明治三十四年六月內務省令第一九號、明治三十四年十一月內務省令第三二號、明治三十六年三月文部省令第九號、明治三十六年十二月文部省令第三七號、明治三十九年四月文部省令第五號、明治三十九年八月文部省令第十三號、明治三十九年五月文部省令第一七號、明治四十年五月文部省令第二九號改正）

第二條　文部大臣ハ毎年二回醫術開業試驗ヲ擧行ス但シ東京ニ於テハ本文ノ外隨時ニ後期實地試驗ヲ擧行スルコトアルヘシ

試驗ヲ擧行スヘキ地方及試驗期日ハ文部大臣之ヲ告示ス

第三條　（削除）

第四條　（削除）

第五條　齒科醫術開業試驗ヲ除ク外醫術開業試驗ハ之ヲ二期ニ分チ前期試驗後期試驗トス前後二期ノ試驗ヲ同時ニ受クルコトヲ得ス但外國ノ醫師免許證書ヲ有スル外國人ニ限リ前後二期ノ試驗ヲ同時ニ受クルコトヲ得

第六條　試驗科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

前期試驗科目

第一　物理學
第二　化學
第三　解剖學
第四　生理學

後期試驗科目

第一　外科學
第二　內科學
第三　藥物學
第四　眼科學
第五　產科學
第六　術生學（細菌學ヲ含ム）
第七　臨床實驗

前項後期試驗科目中第一乃至第六ヲ學說試驗科目トシ第七ヲ實地試驗科目トス學說試驗ト實地試驗トハ分テ之ヲ受クルコトヲ得此場合ニ於テハ學說試驗ヲ先ニシ實地試驗ヲ後ニス

第七條　齒科試驗科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一　齒科解剖學
第二　齒科生理學
第三　口腔外科學及齒科病理學
第四　齒科治術學
第五　齒科藥物學
第六　齒科技工學
第七　實地試驗

前項試驗科目中第一乃至第六ヲ學說試驗科目トス學說試驗ト實地試驗トハ分テ之ヲ受クルコトヲ得此場合ニ於テハ學說試驗ヲ先ニシ實地試驗ヲ後ニス

第八條　前期試驗ハ一箇年半以上後期試驗ハ更ニ一箇年半以上修學セシ者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

但齒科醫術開業試驗ハ二箇年以上修學セシ者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

第九條　試驗ヲ受ケントスル者ハ願書（書式第一號）ニ履歷書（書式第二號）戶籍謄本及寫眞ヲ添ヘ毎年

一月六月中ニ其ノ試驗ヲ受クヘキ地ノ地方廳ニ差出スヘシ但シ實地試驗ノミヲ受ケントスル者ハ居住地ノ地方廳ニ差出スヘシ

東京ニ於テ後期實地試驗ヲ受ケントスル者ハ前項ノ期限ニ拘ラス隨時出願スルコトヲ得

願書及ヒ履歷書ハ本人之ヲ自書シ履歷書中受驗資格ニ關シテハ在學シタル學校、病院ノ校長、院長又ハ就學シタル教師ノ保證ヲ附シ寫眞ハ手札形（縱約四寸橫約二寸五分）トシ出願前六箇月以內ニ脫帽ノ儘撮影シタルモノニシテ其ノ裏面ニハ撮影年月日、出願シタル試驗ノ種類及ヒ族籍、氏名ヲ記入スヘシ

地方廳ニ於テハ前項ノ願書及附屬書類ヲ調査シ願書受領後十五日以內ニ文部省ニ進達スヘシ

第十條　地方廳ニ於テ試驗出願者中醫事ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アリト認ムル者アルトキハ之ヲ文部省ニ具狀スヘシ文部省ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經其情狀ニ因リ期限ヲ定メ試驗ヲ許ササルコトアルヘシ

第十一條　受驗中不正ノ行爲アリタル者ニハ期限ヲ定メ試驗ヲ許ササルコトアルヘシ

第十二條　試驗問題ハ試驗委員長試驗委員協議ノ上之ヲ選定ス

第十三條　（削除）

第十四條　醫術開業試驗ヲ出願スル者ハ其際左ノ手數料ヲ納ムヘシ

但納付シタル手數料ハ返付セス

前期　金六圓五拾錢

後期　金九圓（學說試驗ノミヲ受クル者ハ金六圓五十錢　實地試驗ノミヲ受クル者ハ金六圓）

齒科　金九圓（學說試驗ノミヲ受クル者ハ金六圓五十錢　實地試驗ノミヲ受クル者ハ金六圓）

第一號　願書式（用紙美濃紙）

醫術開業試驗願

收入印紙

本籍
居所
族籍　氏名
年月日生

右試驗受ノ種類　前期　後期（學說實地）（齒科學說實地）試驗

試驗ヲ受クヘキ地　何地

右試驗相受度別紙履歷書戸籍謄本及寫眞相添へ此段相願候也

年　月　日

右　氏　名印

文部大臣宛

第二號　履歷書式（用紙美濃紙）

履歷書

族籍
氏名
年月日生

受驗資格

一　明治何年何月ヨリ何年何月マテ何府何縣何市何郡何學校ニ於テ又ハ何誰ニ就キ何學修業

一　明治何年何月ヨリ何年何月マテ何府縣何市郡何病院ニ於テ又ハ開業醫何誰ニ就キ何科實習

一　明治何年何月何地ニ於テ前期試驗（後期學說試驗齒科學說試驗）ヲ受ケ及第證書（學說合格承認證）第何號ヲ受ク

受驗資格以外ノ學業

一　明治何年何月何府縣何市郡何小學校ニ於テ尋常高等小學校卒業又ハ第何學年修了

一　明治何年何月何府縣何中學校ニ入リ何年何月卒業又ハ第何年級修了

一　明治何年何月ヨリ何年何月マテ何府縣何市郡何學校ニ於テ又ハ何誰ニ就キ何學修業

職業　族籍

一明治何年何月ヨリ何年何月マテ何府縣何市郡ニ於テ何職ニ從事シ又ハ何業ヲ營ム

右之通相違無之候也

明治何年何月何日

前記受驗資格ノ確實ナルコトヲ保証ス

明治何年何月何日　何學校病院長又ハ教師　氏名印

○醫術開業試驗受驗人心得

明治十六年十二月十日内務省告示甲第廿六號

（明治十七年十二月内務省告示甲第三五號、明治二十一年内務省告示第九號、明治三十六年四月文部省告示第六十六號明治三十九年四月文部省令第五號改正又ハ一部消滅トナル）

第一條　醫術開業試驗ハ文部省ヨリ告示シタル試驗擧行地ノ中各自便宜ノ地ニ於テ之ヲ受クルコトヲ得ヘシ

第二條（消滅）

條三條（消滅）

第四條（消滅）

第五條　試驗場ノ取締上不都合ト認ムヘキ所爲アル者ハ主事者ヨリ退場セシムルコトアルヘシ

第六條　試驗中一科以上缺席ノ者ハ其期ノ試驗ヲ終フルコトヲ得ス

○醫術開業試驗願書ヘハ指令ヲ附セサルニ付出願者心得方

明治二十一年八月廿八日内務省告示第九號

醫術開業試驗願書ヘハ自今許可ノ指令ヲ附セサルニ付該出願者ハ試驗擧行ノ期日四日前ニ受驗地ニ到著シ宿所氏名ヲ其地方廳ニ屆出ヘシ

○醫術開業學說試驗合格承認証交付

明治三十一年二月五日内務省令第二號

（明治三十四年十一月内務省令第三三號改正）

醫術開業試驗後期ノ學說試驗及齒科ノ學說試驗ニ合格シタル者ハ學說合格承認證ヲ交付ス

前項ニ據リ學說合格承認証ヲ得タル者ハ次回以後ノ試驗ニ於テ實地試驗ノミヲ受クルコトヲ得實地試

明治三十九年文部省令第五號ニ依リ第二項後段消滅

驗ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ試驗委員長ノ學說合格承認証ヲ添ヘ願出ヘシ但シ試驗手數料金六圓ヲ納ムヘシ

○藥劑師試驗規則

明治二十二年三月廿七日
內務省令第三號

（明治二十四年十一月內務省令第一九號、明治二十六年四月內務省令第五號、明治二十七年五月同省令第五號、同年七月同第六號、明治三十二年一月同省令第二號、明治三十四年六月同省令第一八號、同年十一月同省令第三四號改正、明治三十六年三月文部省令第一〇號改正、明治三十九年四月文部省令第六號改正、第三八號改正）

第一條　藥劑師試驗ヲ受ケントスル者ハ此規則ニ據ルヘシ

第二條　藥劑師試驗ハ每年二回擧行シ其擧行ノ地及ヒ試驗期日ハ豫メ之ヲ告示スヘシ

第三條　試驗科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

學說

第一　物理學　第二　化學

第三　植物學　第四　生藥學

第五　製藥化學

實地

第一　分析術　第二　藥品鑑定

第三　藥物製煉　第四　調劑術

學說試驗ト實地試驗トハ分テ之ヲ受クルコトヲ得此場合ニ於テハ學說試驗ヲ先ニシ實地試驗ヲ後ニス

第四條　試驗ヲ受ケントスル者ハ願書（書式第一號）ニ履歷書（書式第二號）戶籍謄本及寫眞ヲ添ヘ每年一月六月中ニ其ノ試驗ヲ受クヘキ地ノ地方廳ニ差出スヘシ但シ實地試驗ノミヲ受ケントスル者ハ居住地ノ地方廳ニ差出スヘシ

願書及ヒ履歷書ハ本人之ヲ自書シ寫眞ハ手札形（縱約四寸橫約二寸五分）トシ出願前六箇月以內ニ脫帽ノ儘撮影シタルモノニシテ其裏面ニハ撮影年月日、出願シタル試驗ノ種類及ヒ族籍、氏名ヲ記入スヘシ

第五條　（削除）

第六條　藥劑師試驗ヲ出願スル者ハ其際試驗手數料金六圓（學說試驗ノミヲ受クル者ハ金四圓實地試驗ノミヲ受クル者ハ金四圓）ヲ納付スヘシ但納付シタル手數料ハ返付セス

第七條　受驗上不都合ノ所爲アル者ハ試驗委員長ヨリ退場ヲ命スルコトアルヘシ

第八條　受驗中不正ノ行爲アリタル者ニハ期限ヲ定メ試驗ヲ許ササルコトアルヘシ

第九條　此規則ハ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

第一號　願書式（用紙美濃紙）

藥劑師試驗願

收入印紙

本籍
居所
族籍

出願試驗ノ種類　學說及實地（學說又ハ實地）試驗

試驗ヲ受クヘキ地　何地又ハ學說ハ何地實地ハ何地

右試驗相受度別紙履歷書戸籍謄本及寫眞相添ヘ此段相願候也

年　月　日

右

氏　名

年　月　日生

氏　名印

文部大臣宛

第二號　履歷書式（用紙美濃紙）

履　歷　書

族籍

氏　名

年　月　日生

試驗科目ノ修業

一　明治何年何月ヨリ何年何月マテ何府縣何市郡何學校ニ於テ又ハ何誰ニ就キ何學修業

一　明治何年何月ヨリ何年何月マテ何府縣何市郡何病院ニ於テ又ハ藥劑師何誰ニ就キ何科實習

一　明治何年何月何地ニ於テ藥劑師學說試驗ニ合格シ承認證第何號ヲ受ク

普通學ノ修業

一　明治何年何月何府縣何市郡何小學校ニ於テ尋常高等小學科卒業又ハ第何學年修了

一　明治何年何月何府縣何中學校ニ入リ何年何月卒業又ハ第何年級修了

一　明治何年何月ヨリ何年何月マテ何府縣何市郡何學校ニ於テ又ハ何誰ニ就キ何學修業

職　業

一　明治何年何月ヨリ何年何月マテ何府縣何市郡ニ於テ何職ニ從事シ又ハ何業ヲ營ム

右之通相違無之候也

明治何年何月何日

族籍

氏　名印

○藥劑師試驗受驗人心得

明治二十三年二月十四日内務省告示第七號

（明治三十六年四月文部省告示第六七號、明治三十九年四月文部省令第六號改正）

第一條　藥劑師試驗ハ文部省ヨリ告示シタル試驗擧行地ノ中各自便宜ノ地ニ於テ之ヲ受クルコトヲ得ヘシ

第二條　（削除）

第三條　藥劑師試驗願書ハ許可ノ指令ヲ附セサルニ付該出願者ハ試驗與行ノ期日四日前ニ受驗地ニ到着シ宿所氏名ヲ其地方廳ニ屆出ツヘシ

○藥劑師學說試驗合格承認証交付

明治三十一年二月七日内務省令第三號

（明治三十四年十一月内務省令第三五號改正）

明治三十九年文部省令第六號ニ依リ第二項後段失效

藥劑師試驗ノ學說試驗ニ合格シタル者ハ學說合格承認證ヲ交付ス

前項ニ據リ學說合格承認證ヲ得タル者ハ次回以後ノ試驗ニ於テ實地試驗ノミヲ受クルコトヲ得實地試驗ヲ受ケントスル者ハ其試驗願書ニ試驗委員長ノ學說合格承認証ヲ添ヘ願出ヘシ但シ試驗手數料金四圓ヲ納ムヘシ

○醫術開業試驗及藥劑師試驗手數料ハ收入印紙ヲ願書ニ貼シ納付方

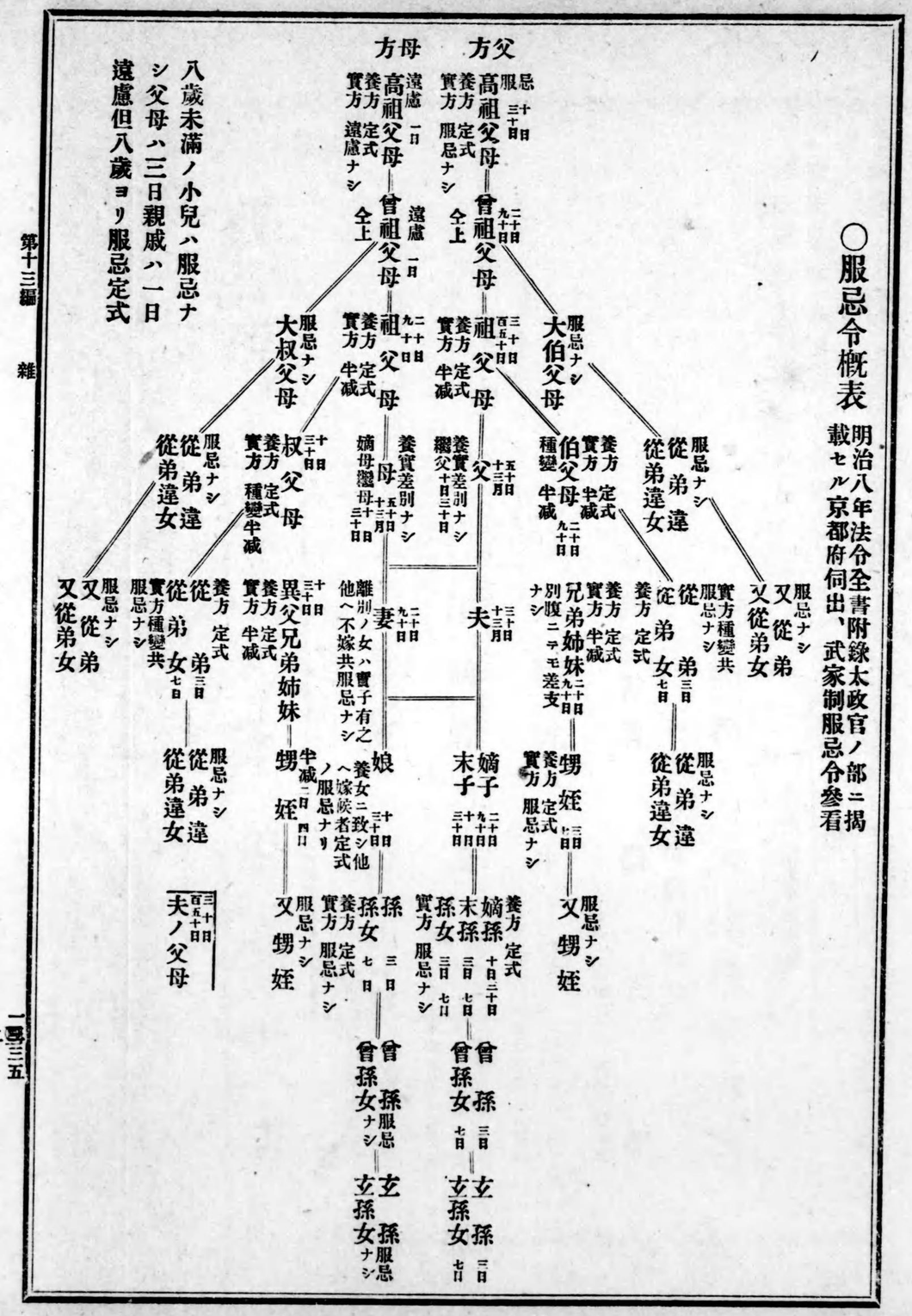
明治二十六年四月十四日內務省令第六號

醫術開業試驗及藥劑師試驗手數料ハ自今其金額ニ相當スル「登記印紙」ヲ願書ニ貼シ納付スヘシ

（明治三十一年勅令第百四十號ニ依リ收入印紙ヲ用フルコトヽナル）

○服忌令概表

明治八年法令全書附錄太政官ノ部ニ掲載セル京都府伺出、武家制服忌令參看

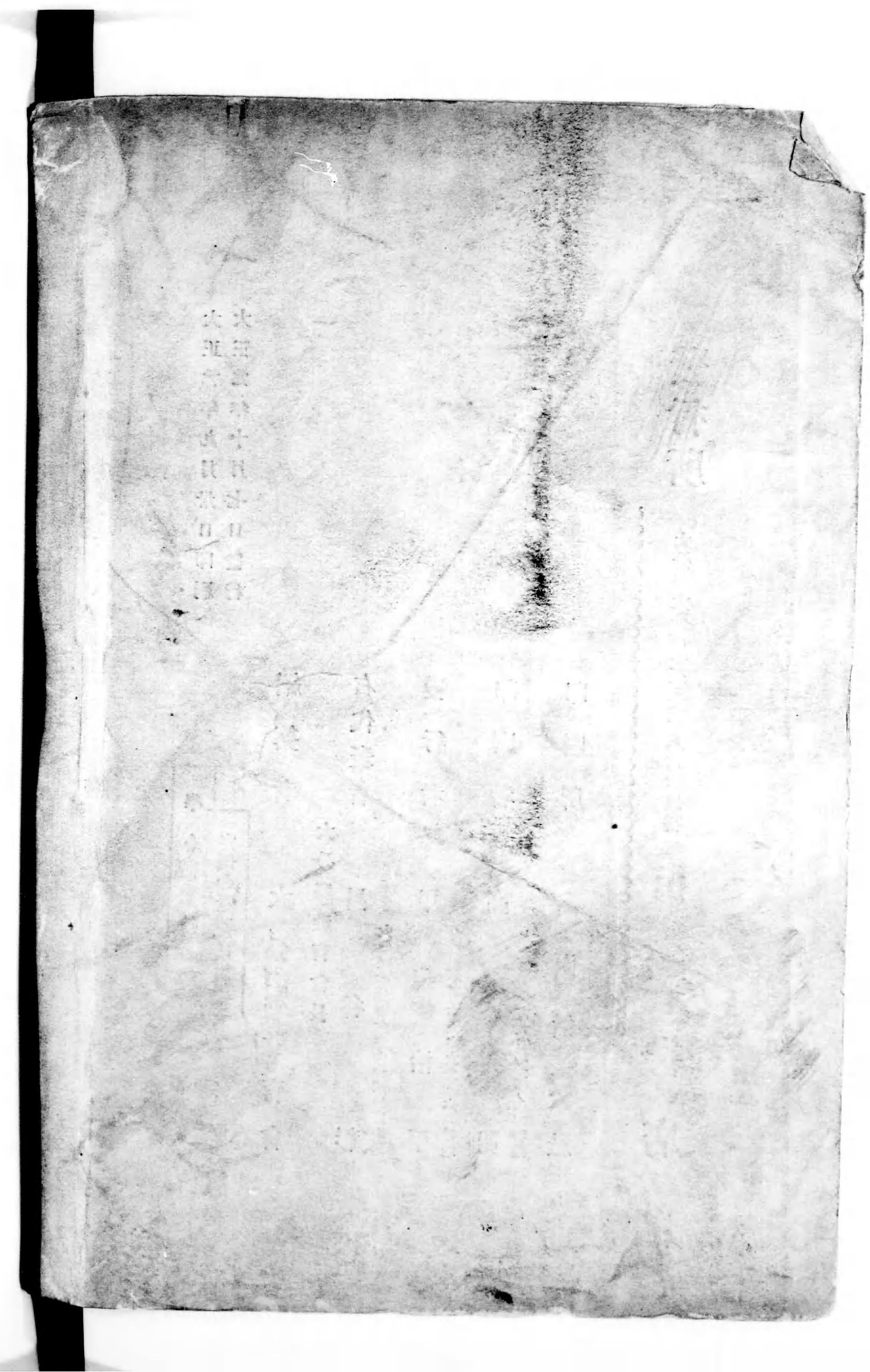

父方
高祖父母
曾祖父母
祖父母
父
夫
妻
娘
孫
曾孫
玄孫
大伯父母
伯父母
從弟
從弟女
從弟女
從弟女

271
4

學令類抄
定價金壹圓五拾錢

大正元年九月卅日印刷
大正元年十月七日發行

編纂者　大分縣教育會
右代表者　大分縣教育會長　昌谷彰
發行者　甲斐治平　大分縣大分市大字大分八六六番地
印刷者　高山英明　大分縣大分市大字勢家三ノ四四番地
印刷所　高山活版社　大分縣大分市大字大分九二五番地

發行所　大分縣大分市大字大分八六六地番　甲斐書店

終